

第 96 回 幹 事 会

平成 22 年 5 月 27 日

日 本 学 術 会 議

第96回幹事会議事次第

日時：平成22年5月27日（木）13：30

非公開審議事項
1 委員会関係

- 提案1 若手アカデミー委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定
- 提案2 科学者委員会運営要綱の一部改正
- 提案3 国際委員会における分科会委員の決定
- 提案4 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定等
- 提案5 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会設置要綱の一部改正及び委員の決定
- 提案6 人間の安全保障とジェンダー委員会の委員の決定
- 提案7 東アジア共同体の学術基盤形成委員会の委員の決定
- 提案8 持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築委員会設置要綱の一部改正及び委員の決定
- 提案9 自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会設置要綱の一部改正及び委員の決定
- 2 地区会議関係 提案10 地区会議の構成員の変更
- 3 外部委員候補者の推薦 提案11 外部委員候補者の推薦
- 4 その他

審議事項
1 提言等

- 提案12 提言「我が国における遺伝子組換え植物研究とその実用化に関する現状と問題点」
- 2 規則等 提案13 産学官連携功労者表彰要領
- 3 団体等の指定 提案14 日本学術会議協力学術研究団体の指定
- 4 国際会議関係 提案15 平成22年度代表派遣について（平成22年7月～9月分）
- 提案16 英国王立協会創立350周年記念行事等への会員の派遣
- 5 シンポジウム等 提案17 公開シンポジウム「変容する芸術生成の場」
- 提案18 公開シンポジウム「ジェンダーから展望する新しい社会のしくみ：女性の貧困・雇用・年金」
- 提案19 公開シンポジウム（労働政策フォーラム）「若者問題への接近：自立への経路の今日的あり方をさぐる」
- 提案20 市民公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学 - 市民との対話 - PART 2」
- 提案21 「場の感性」の蘇生に向けて
- 提案22 公開シンポジウム「健康の社会格差 - 今、多様な知を結集し、すべての人々に生きやすい社会を」
- 提案23 公開シンポジウム「初等・中等教育における「いのちの教育」に関わる看護からの提言」
- 提案24 ロボット学分科会シンポジウム

	提案25	公開シンポジウム「遺伝子組換え作物とその利用に向けて」
	提案26	市民公開講座「感覚器（視覚と聴覚）と社会とのつながり」
	提案27	日本学術会議第三部主催市民公開講演会～宇宙と生命医療の最先端を知る～
	提案28	公開シンポジウム「実践や学問構築に活かす質的研究」
	提案29	公開シンポジウム「哲学・倫理・宗教教育はなぜ必要か―初等・中等教育における哲学・倫理・宗教教育の意義と可能性―」
6 イベント	提案30	「科学・技術フェスタ in 京都-平成22年度産学官連携推進会議-」
	提案31	「平成22年度女子中高生夏の学校2010～科学・技術者のたまごたちへ～」
7 後援	提案32	国内会議
	提案33	国際会議
その他		

資料2

第96回幹事会（5月27日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴村 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 副部長	小林 良彰
第一部 幹事	木村 茂光
第一部 幹事	山本 眞鳥

第二部 部長	浅島 誠
第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 幹事	池田 駿介

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 会長談話	2
3 審議付託等	3
4 委員会委員の辞任	3
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	4
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	4
3 機能別委員会の開催とその議題	5
4 分野別委員会の開催とその議題	6
5 課題別委員会の開催とその議題	13
6 サイエンスカフェの開催	14
7 総合科学技術会議報告	14
8 慶弔	15

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4 月 22 日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
4 月 27 日(火)	総合科学技術会議	金澤会長
4 月 30 日(金)	公開シンポジウム「I P C C (気候変動に関する政府間パネル) 問題の検証と今後の科学の課題」(日本学術会議講堂) 挨拶	金澤会長、大垣副会長
5 月 6 日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
5 月 7 日(金)	公開シンポジウム「生命動態システム科学～生命の動的理解・予測・制御を目指して～」(日本学術会議講堂) 挨拶	金澤会長
5 月 12 日(水)	表敬訪問 マレーシア政府科学顧問 A.H. ザクリ氏	金澤会長、唐木副会長、綱木次長
5 月 12 日(水)	最先端研究基盤事業に係る日本学術会議との意見交換会 (文部科学省)	金澤会長、鈴村副会長、唐木副会長
5 月 13 日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
5 月 13 日(木)	日本学術会議四役と総合科学技術会議有識者議員との意見交換会 (合同庁舎 4 号館)	金澤会長、大垣副会長、鈴村副会長、唐木副会長、竹林局長
5 月 18 日(火)	表敬訪問 ロメロ・ヒックス長官 (メキシコ)	金澤会長、唐木副会長
5 月 18 日(火)	学術と政策に関する意見交換会 (各府省局長級との意見交換会)	金澤会長、大垣副会長、鈴村副会長、唐木副会長、竹林局長、綱木次長
5 月 20 日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
5 月 21 日(金)	公開シンポジウム「知の統合」に向けて (日本学術会議講堂) 挨拶	金澤会長
5 月 24 日(月)	第 1 回世界加速器会議 (国立京都国際会館) 挨拶	唐木副会長
5 月 26 日(水)	公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム」挨拶	金澤会長
5 月 26 日(水)	日本学術会議会長と関係記者会との懇談会	金澤会長、唐木副会長、竹林局長、綱木次長
5 月 27 日(木)	G 8 学術会議共同声明総理手交	金澤会長、唐木副会長、竹林局長、綱木次長

2 会長談話

I A P 共同議長声明「教育と研究に世界経済危機が与えるインパクトに関する提言」に関する会長談話

日本学術会議が加入する国際学術団体の一つであるインターアカデミーパネル（IAP: InterAcademy Panel on International Issues）の共同議長は、「教育と研究に世界経済危機が与えるインパクトに関する提言（Reflections on the Impact of the Global Economic Crisis on Education and Research）」と題する声明を取りまとめました（別紙）。

この声明は、世界全体を巻き込んだ一昨年の経済危機を受け、公的部門、民間部門のいずれにおいても、科学的知識、工学的及び技術的イノベーションへの持続的な投資が行われなくなる可能性について、科学者コミュニティの立場から警鐘を鳴らし、切迫した財政事情に直面している中でも、各国は教育、科学・技術及びイノベーションを促進する政策とプログラムを支援すべきことを、緊急に表明するものです。

地球規模での対応が現在求められている難問、すなわち雇用、気候変動、エネルギー、食料、水の安全、貧困、生物多様性の喪失、そして医療などの問題を解決するためには、教育、科学・技術への持続的投資が重要であること、これらの投資を維持することのみならず、可能ならば拡大すべきことを求めています。

日本学術会議は、今回の IAP 共同議長声明を作成する過程での議論に加わってまいりましたが、本声明の内容は、平成 20 年 10 月 31 日に公表した「我が国の未来を創る基礎研究の推進に関する会長談話（ノーベル物理学賞及び化学賞の受賞に関連して）」及び平成 21 年 11 月 20 日に公表した「我が国の学術研究推進の重要性についての会長談話」と基本的な考え方が一致しています。私は、日本学術会議の会長として本声明に心から賛同します。本声明の重要性にかんがみ、その内容が実行されるよう各国が努力することを期待します。

世界の科学アカデミーが、社会における科学者の役割について心を同じくし、一丸となって全地球規模の問題解決に対応してゆくよう促すことで世界に貢献していけるように、日本学術会議は今後も努力を続けてまいりたいと思っています。

平成 22 年 5 月 26 日
日本学術会議会長
金 澤 一 郎

3 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
食と花の世界フォーラムにいがた2010 食の国際会議“食の未来を考える”の後援	食と花の世界フォーラム組織委員会会長	第二部
第4回国際 O - CHA 学術会議の後援	第4回国際 O - CHA 学術会議実行委員会委員長	第二部
機械の日・機械週間の後援	社団法人日本機械学会会長	第三部
日本熱物性シンポジウムの後援	日本熱物性学会会長	第三部
第12回市民講座「光が織りなす新たな世界～新世代のあかり LED 照明の可能性～」の後援	社団法人日本表面科学会関西支部支部長	第二部 第三部
第12回日本感性工学会大会の後援	日本感性工学会会長	第三部
大阪大学蛋白質研究所運営協議会委員候補者の推薦	大阪大学蛋白質研究所長	第二部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	鎌倉遺文研究会他	科学者委員会

4 委員会委員の辞任

- 地域研究委員会多文化共生分科会 田嶋 淳子（平成22年2月15日付）
- 法学委員会 井上 英夫（平成22年3月26日付）
- 地球惑星科学委員会国際対応分科会 SCAR 小委員会
 - 小澤 芳郎（平成22年5月10日付）
 - 仙石 新 （平成22年5月10日付）

第 2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) **第三部拡大役員会** (第 2 0 回)(4 月 2 3 日)
WEC2015 の進捗状況について
科学技術人材育成シンポジウムの案内について
SCJ の機能強化について その他
- (2) **第三部拡大役員会** (第 2 1 回)(4 月 3 0 日)
IPCC 問題の検証と今後の科学の課題について
その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) **若手アカデミー委員会 拡大役員会** (4 月 1 9 日)
若手アカデミー委員会の今後の運営方針について
その他
- (2) **若手アカデミー委員会** (第 21 期・第 4 回)(4 月 2 2 日)
出張報告等
 - ・ ドイツでの国際ワークショップ
 - ・ 大阪での帰国報告シンポジウム若手アカデミーの在り方について
その他
- (3) **日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会** (第 1 5 回)(4 月 2 8 日)
「日本の展望」提言公表後の状況、反響等について
学術研究統計について
 - ・ 経過報告
 - ・ 学術統計分科会の設置及び委員候補についてその他のフォローアップについて
 - ・ シンポジウムほかその他
- (4) **日本の展望委員会 起草分科会** (第 1 6 回)(5 月 1 8 日)
「日本の展望 - 学術からの提言 2010」に基づく「勧告」(案) について
その他

- (5) 日本の展望委員会 (第 1 1 回)(5 月 2 5 日)
「日本の展望 - 学術からの提言 2010」に基づく「勧告」(案)について
「日本の展望 - 学術からの提言 2010」の普及活動について
リーフレットの作成について その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) 科学者委員会 知的財産検討分科会 (第 7 回)(4 月 2 6 日)
報告案の審議 その他
- (2) 科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会 (第 1 0 回)(5 月 7 日)
新公益法人法での申請における問題点について
今後の意思の表出について
- (3) 国際対応戦略立案分科会 (第 5 回)(5 月 1 0 日)
国際学術団体への加入希望に係るヒアリングについて
その他
- (4) 科学者委員会広報分科会 (第 1 1 回)(5 月 1 7 日)
日本学術会議の広報活動について
『学術の動向』への編集協力について
その他
- (5) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2010 分科会
(第 3 回)(5 月 19 日)
会議概要について プログラムについて 会議報告について
講演者への招待状について 今後のスケジュール、次回分科会について
その他
- (6) 科学者委員会 学術誌問題検討分科会 (第 1 0 回)(5 月 2 4 日)
提言案の審議 その他
- (7) 科学と社会委員会 (第 1 0 回)(5 月 2 4 日)
知のタペストリー・シリーズの現状報告及び今後の活動計画について
知のフォーラムについて
1) ミニ・シンポジウムの現状について
2) 新たな課題について
国際人権ネットワーク委員会報告について
その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) 地球研究委員会多文化共生分科会 (第 8 回)(4 月 2 6 日)
宮島先生の発表 今後の計画 シンポジウムの計画 その他
- (2) 言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地球研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会 (第 5 回)(4 月 2 6 日)
報告「東アジアの研究環境の変容と若手研究者交流の必要性 - 歴史共同研究と海外の日本研究 - 」(東京大学 川島 真先生)
大学における歴史教育のあり方について
アジア研究・対アジア関係に関する分科会の今後の予定 その他
- (3) 地球研究委員会国際地域開発研究分科会 (第 6 回)(4 月 2 7 日)
国際開発協力に関する提言に向けた報告と議論
・ 環境政策に関する中国の事例を中心とした報告
(報告者：堀井伸浩 (九州大学))
・ 「社会政策における革新的取り組みと日本の ODA 実施体制」
(報告者：黒崎 卓)
その他
- (4) 言語・文学委員会古典文化と言語分科会 (第 7 回)(5 月 7 日)
「文学部」(大学の言語・文学系の組織) の再生をめざして
話題提供 田邊 玲子委員
「文学部」(大学の言語・文学系の組織) の再生をめざして
話題提供 中野 三敏委員
その他
- (5) 心理学・教育学委員会心と身体から教育を考える分科会 (第 4 回)(5 月 9 日)
シンポジウムについて 分科会の今後の活動について
報告書等の発表について その他
- (6) 言語・文学委員会 (第 5 回)(5 月 1 4 日)
「大学教育 (学部教育) 」分野別質保証の在り方について
公開シンポジウム開催について その他
- (7) 言語・文学委員会科学と日本語分科会 (第 7 回)(5 月 1 4 日)
IT と日本語の変化 報告者 荻野綱男氏 (参考人) その他
- (8) 第一部国際協力分科会 (第 1 回)(5 月 1 7 日)

報告

第一部国際協力分科会への改組について

オーストラリア社会科学アカデミーからの審査依頼について

団体加盟、脱退と新規加盟申請の状況

議題

第一部国際協力分科会役員の選出（委員長、副委員長、幹事）

第一部国際協力分科会の今後の活動について

その他

（ 9 ） 法学委員会生殖補助医療と法分科会（第6回）（5月22日）

大野和基さん（国際フリージャーナリスト）による報告

その他

（ 10 ） 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同IHDP分科会（第4回）（5月23日）

地球惑星科学連合IHDP国際セッションについて

関連委員会・小委員会等の動向について

IHDP新コアプロジェクト（KLSC）について

今後の活動について その他

第二部担当

（ 1 ） 健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会（第7回）（4月26日）

日本学術会議総会報告（福永委員）

「世界とアジアのなかの日本分科会」の提言についての報告（田原委員）

指針の策定WGからの報告（大築委員）

* 竹中晃二氏（早稲田大学人間科学学術院教授）からガイドラインについてのヒアリング

男女共同参画WGからの報告（飯田委員）

サイエンスカフェについての報告（跡見委員）

若手研究者育成についての報告（田畑委員） 他のWGからの報告

日本スポーツ体育健康科学学術連合関係報告（高松委員） その他

（ 2 ） 臨床医学委員会身体機能回復分科会（第4回）（4月26日）

岡野先生、田畑先生ご講演

今後検討すべき課題について

その他

（ 3 ） 農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会（第6回）（4月27日）

分科会WG「知能的太陽光植物工場」について
話題提供(1)野並浩先生(2)清水浩先生
今後の分科会の活動方針 その他

- (4) **臨床医学委員会感覚器分科会**(第6回)(4月27日)
「学術の動向」の7月号特集「感覚器(視覚と聴覚)障害の新しい治療」について
市民公開講座『視覚と聴覚と社会のつながり』プログラム最終案について
平成23年度の市民公開講座について
その他

- (5) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会**(第3回)
(4月27日)
4月5～6日に開催された日本学術会議総会の報告
特任連携会員の選出について
人類学関連の教育に関して
その他

- (6) **農学委員会農学分科会**(第4回)(4月28日)
平成22年度農学分科会の活動について その他

- (7) **基礎医学委員会、臨床医学委員会合同医学教育分科会**(第8回)(4月30日)
対外報告/提言に関して その他

- (8) **健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会**(第8回)(5月6日)
3月13日開催のシンポジウムの総括
課題別委員会の設置の経緯と当委員会のかかわりについて(秋山委員)
次回のシンポジウムの企画 その他

- (9) **健康・生活科学委員会看護学分科会**(第8回)(5月7日)
審議
遺伝相談に関する人材育成について(室伏委員)
アドバンス版看護とは(療養上の世話、診療の補助について考える)
看護学分科会21期からの発信内容(提言等の検討)の方向性について
その他(今後の予定、第9回日程調整等)
報告
いのちの教育班:看護学教育学会企画シンポジウム進捗状況(川口委員)
厚労省検討中「特定看護師」(仮称)に関する議論のその後

- (10) **歯学委員会**(第7回)(5月12日)

日本の展望「歯学委員会からの報告」の今後の取扱いについて
日本の展望の歯学分野における取扱いについて
歯学委員会の各種分科会の進捗状況と今後の活動予定について
その他

- (1 1) 健康・生活科学委員会生活科学分科会 (第 1 2 回)(5 月 1 3 日)
「大学の教養教育に授業科目『生活する力を育てる』を！」の公開講演会
および活動について その他

- (1 2) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 総合微生物科学
分科会 (第 3 回)
基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学
委員会合同 I U M S 分科会 (第 4 回)(5 月 1 7 日)
I U M S 2 0 1 1 札幌について
その他

- (1 3) 統合生物学委員会 (第 9 回)(5 月 2 2 日)(豊岡市民プラザ会議室)
公開講演会の進行について
統合生物学委員会生物多様性提言のフォローアップ
秋季に開催する新たな公開講演会の企画
その他

- (1 4) 農学委員会植物保護科学分科会 (第 1 回)(5 月 2 4 日)
自己紹介
委員長、副委員長、幹事 (2 名以内) の選出
植物保護分科会の設置経緯・設置目的について (上野委員)
特任連携会員の追加について
植物保護分科会の活動計画
・ シンポジウムの開催・「報告」の作成 その他

- (1 5) 臨床医学委員会医師の専門職自律に関する分科会 (第 2 回)(5 月 2 5 日)
医師の自律組織に関する文書の作成について
委員の追加やヒアリングの実施について その他

- (1 6) 臨床医学委員会障害者との共生分科会 (第 8 回)(5 月 2 6 日)
障害の評価方法について：医学モデルと社会モデル
今後の分科会の進め方について その他

第三部担当

- (1) 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 WFE0 分科会 (第 9 回)
(4 月 2 6 日)
2010 年 3 月 WFE0 常任理事会報告
2015WEC 日本招致について その他
- (2) 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会・事故調査のあり方検討小委員会 (第 3 回)(4 月 2 6 日)
「火災現場における 科学的アプローチ」 長谷見雄二委員
「原子力における事故・トラブルの根本原因分析について」作田博委員
その他
- (3) 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会 自動制御の多分野応用小委員会 (第 3 回)(4 月 2 6 日)
自動制御連合講演会について
IFAC (国際自動制御連合) 世界大会の招致活動
今後の活動方針 その他
- (4) 土木工学・建築学委員会地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会
(第 6 回)(4 月 2 8 日)
話題提供
東京都建設局河川部計画課長 東野寛 様
「東京の低地河川における高潮対策事業」
東京都港湾曲港湾整備部環境対策担当課長 松尾認 様
「東京港における高潮対策事業 (仮題)」
意見交換 その他
- (5) 地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会 (第 6 回)(4 月 2 8 日)
地球惑星科学における大型研究のあり方について その他
- (6) 物理学委員会 I A U 分科会 (第 9 回)
物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会 (第 9 回) 合同分科会
(4 月 3 0 日)
A) I A U 分科会
I A U の運営改善について
とくに総会の運営、Commission/Division の運営、シンポジウム等の在り方など
I A U の 10 年計画「Astronomy for Developing World」についての日本の取り組みなど
B) 天文学・宇宙物理学分科会

「天文学・宇宙物理学長期計画」のフォローアップ
天文学・宇宙物理学分科会の今後の活動について
会員・連携会員の改選について

(7) **物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会** (第 5 回)(4 月 3 0 日)

役員の改選について
第 2 1 期を締めくくるにあたっての活動について
日本の展望について (報告)
学協会との連携シンポジウム：日本物理学会 (岡山)(報告)
物理学委員会 (3 / 1) 報告
総会 (4 / 5、6) 報告 その他

(8) **物理学委員会** (第 1 0 回) **物性物理学・一般物理学分科会** (第 6 回) **素粒子物理学・原子核物理学分科会** (第 4 回) **天文学・宇宙物理学分科会** (第 1 0 回)
(4 月 3 0 日)

物理学委員会及び三部関連役員の変更 (ほか慶事)
物理学委員会及び三部役員会関連の報告
各分科会の報告
日本の展望、物理学委員会他について
大型・大規模研究計画について
学協会との連携活動について
物理学委員会の役割と活動 (年次) の確認
第 2 1 期を締めくくるにあたっての活動提案、第三部の状況等
その他

(9) **地球惑星科学委員会** (第 5 回)(5 月 7 日)

大型研究の計画について
今後の取組について
連合大会について
その他

(1 0) **土木工学・建築学委員会景観と文化分科会** (第 8 回)(5 月 1 0 日)

話題提供 (小玉先生、越澤先生)
提言で取り上げる内容について その他

(1 1) **地球惑星科学委員会 IUGG 分科会** (第 3 回)(5 月 1 0 日)

前回以降の動きについての報告 IUGG の役員推薦
2011IUGG への National Report の作成 各小委員会の活動報告
その他

(1 2) **電気電子工学委員会 U R S I 分科会医用生体電磁気学小委員会**

- (第3回)(5月12日)
2010 AP - RASC (富山)の準備状況について
その他(URSI総会イスタンブール)
- (13) 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同IUTAM分科会(第3回)
(5月14日)
IUTAM代表委員会について 来年度理論応用力学講演会について
IUTAM分科会委員について その他
- (14) 電気電子工学委員会通信・電子システム分科会(第3回)(5月14日)
学術会議と学協会の連携について
学術会議総会・電気・電子工学委員会報告
電気電子工学委員会主催シンポジウム(5月28日)対応
電気電子工学のあり方文書作成WG その他
- (15) 環境学委員会(第5回)(5月17日)
環境学委員会主催シンポジウム企画について
科研費等申請科目・環境学の提案について
(仮)『環境学』刊行計画について その他 ・各分科会からの報告
- (16) 環境学委員会 環境政策・環境計画分科会(第4回)(5月17日)
2010年度の活動方針について その他
- (17) 総合工学委員会 巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会
(第7回)(5月20日)
各タスクの検討結果の報告 21期活動のまとめ方の議論 その他
- (18) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 eGY 小委員会(第2回)(5月23日)
WDCの動向について eGY Japan 活動方針について
NICTクラウド報告 大学間連携プロジェクト報告
ISAS/C-SODA/DARTS プロジェクト報告 その他
- (19) 地球惑星科学委員会 IGU 分科会 IAG (国際地形学会) 小委員会
(第2回)(5月24日)
IAG 分担金(2010年度) 講演会の開催 その他
- (20) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAVCEI 小委員会(第2回)(5月24日)
火山学に関連した最近の国内外の状況 IAVCEI 2013の準備状況
その他・火山学における日本のプレゼンス

(2 1) 土木工学・建築学委員会学際連携分科会 IRDR(災害リスク統合研究)小委員会 (第2回)(5月24日)

IRDR Science Committee meeting (April 14 - 16) の報告
首都圏の大規模水害による被害想定について
首都直下地震防災・減災特別プロジェクトについて
日本における IRDR 委員会の活動について その他

(2 2) 地球惑星科学委員会国際対応分科会 SCOSTEP 小委員会 (第5回)・STPP 小委員会 (第4回)(5月24日)

CAWSES - I I キックオフシンポジウムについて
11月エジプト ISWI 会議の日本の参加について
その他

(2 3) 地球惑星科学委員会 IMA 分科会 (第4回)(5月24日)

IMA2010 への対応
鉱物科学 (地球惑星物質科学と地球化学) の現状と問題点 その他

(2 4) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 ICS 対応地質年代学小委員会 (第2回) (5月25日)

副委員長選出について 新委員について 小委員会の将来構想
その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 人間の安全保障とジェンダー委員会 (第7回)(4月23日)

ヒアリング「核不拡散・軍縮のガバナンスとジェンダー」猪口委員長
今後の審議の進め方について その他

(2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会 (第13回)(4月26日)

報告書案について その他

(3) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会拡大役員会 (第8回)(5月18日)

中央教育審議会に対する報告について その他

6 サイエンスカフェの開催

(1) 4月23日 19:00～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：「医療の未来について考える」

講 師： 桐野 高明（日本学術会議会員、国立国際医療センター総長）

ファシリテーター：大野 竜三

（日本学術会議連携会員、愛知淑徳大学医療福祉学部教授）

(2) 5月16日 14:00～15:30

場 所：愛知芸術文化センター10階レストラン

テーマ：サイエンスカフェ in 名古屋 第9回

「昆虫にみる生物多様性—昆虫の世界と生きる知恵—」

講 師： 山下 興亜（日本学術会議連携会員、中部大学長）

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

（第90回）（4月27日）

(1) 最先端研究開発戦略的強化事業運用基本方針

(2) 諮問第11号「ヒトES細胞の使用に関する指針の改正について」

諮問第12号「ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針の改正について」に
対する答申（決定・答申）

(3) 第4期科学技術基本計画策定に向けた検討状況（報告、意見交換）

(4) 平成23年度の科学・技術に関する予算等の資源配分の方針の基本指針（決定）

2. 専門調査会

○ 基本政策専門調査会（第7回）（4月15日）

(1) 科学技術基本政策策定の基本方針（素案）について

(2) その他

○ 基本政策推進専門調査会 研究開発システムWG（第6回）（4月7日）

(1) 第5回研究開発システムWGにおける意見交換の概要について

(2) 中間報告とりまとめのための議論1

(3) その他

○ 基本政策推進専門調査会 研究開発システムWG（第7回）（4月28日）

(1) 研究開発を担う法人の機能強化検討チーム 中間報告の紹介

(2) 中間報告とりまとめのための議論2

(3) その他

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・4月27日 会長出席
- ・5月 6日 会長出席
- ・5月13日 会長出席
- ・5月20日 会長出席
- ・5月27日 会長出席予定

8 慶弔

○ 慶事

紫綬褒章

大塚 啓二郎	(政策研究大学院)	第20、21期連携会員
斎藤 修	(一橋大名誉教授)	第18、19期研究連絡委員、第20、21期連携会員
門脇 孝	(東京大学教授)	第20期連携会員
阿部 啓子	(元東京大学教授)	第18、19期研究連絡委員、第20、21期連携会員
杉山 雄一	(東京大学教授)	第19期研究連絡委員、第20、21期連携会員
土井 正男	(東京大学教授)	第20、21期連携会員
今中 忠行	(京都大学名誉教授)	第20、21期会員
中沢 正隆	(東北大学教授)	第20、21期連携会員
辻井 潤一	(東京大学教授)	第17、18期研究連絡委員、第20、21期連携会員
岩本 正和	(東京工業大学教授)	第18、19期研究連絡委員

瑞宝章

○ 瑞宝重光章

小川 英次	(名古屋大学名誉教授)	第16、17期研究連絡委員
鴨下 重彦	(元国立国際医療センター総長)	第17～19期会員、第20、21期連携会員
竹下 守夫	(一橋大学名誉教授)	第17期会員

○ 瑞宝中綬章

岩村 秀	(東京大学名誉教授)	第18、19期会員
小野 博志	(東京医科歯科大学名誉教授)	第16期研究連絡委員
片岡 健	(大阪府立大学名誉教授)	第17期研究連絡委員
河内 清光	(元科技厅放射線医学総合研究所研究総務官)	第17期研究連絡委員

岸 輝雄	(元物質・材料研究機構理事長) 第17～20期会員、 第16期研究連絡委員、第21期連携会員
木村 滋	(元蚕糸・昆虫農業技術研究所長) 第16期研究連絡委員
栗田 良春	(元工業技術院計量研究所長) 第16期研究連絡委員
小泉 千秋	(元東京水産大学長) 第16期研究連絡委員、第17期会員
佐々木 堯	(元食品総合研究所長) 第18、19期研究連絡委員
田村 浩一郎	(元工業技術院電子技術総合研究所長) 第16期研究連絡委員
角田 文男	(岩手医大名誉教授) 第16期研究連絡委員、第17～19期 連携会員
利谷 信義	(元東京家政学院大学長) 第16期会員
中川 博次	(京大名誉教授) 第16期研究連絡委員
成田 十次郎	(元高知女子大学長) 第17期会員
菱田 政宏	(関西大名誉教授) 第16期会員
南 茂夫	(元大阪電気通信大学長) 第16期研究連絡委員
森 昭三	(元びわこ成蹊スポーツ大学長) 第16期研究連絡委員
森本 三男	(横浜市大名誉教授) 第16～18期会員

○ ご逝去

柴田 拓二(しばたたくじ) 80歳 5月2日 第15～16期会員 第5部
北海道大学名誉教授

審 議 事 項

			頁
審議事項			
1 提言等	提案12	提言「我が国における遺伝子組換え植物研究とその実用化に関する現状と問題点」	1
2 規則等	提案13	産学官連携功労者表彰要領	2
3 団体等の指定	提案14	日本学術会議協力学術研究団体の指定	9
4 国際会議関係	提案15	平成 22 年度代表派遣について（平成 22 年 7 月～9 月分）	11
	提案16	英国王立協会創立350周年記念行事等への会員の派遣	13
5 シンポジウム等	提案17	公開シンポジウム「変容する芸術生成の場」	15
	提案18	公開シンポジウム「ジェンダーから展望する新しい社会のしくみ：女性の貧困・雇用・年金」	17
	提案19	公開シンポジウム（労働政策フォーラム）「若者問題への接近：自立への経路の今日的あり方をさぐる」	19
	提案20	市民公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学 - 市民との対話 - PART 2」	21
	提案21	「場の感性」の蘇生に向けて	23
	提案22	公開シンポジウム「健康の社会格差 - 今、多様な知を結集し、すべての人々に生きやすい社会を」	25
	提案23	公開シンポジウム「初等・中等教育における「いのちの教育」に関わる看護からの提言」	27
	提案24	ロボット学分科会シンポジウム	29
	提案25	公開シンポジウム「遺伝子組換え作物とその利用に向けて」	31
	提案26	市民公開講座「感覚器（視覚と聴覚）と社会とのつながり」	33
	提案27	日本学術会議第三部主催市民公開講演会～宇宙と生命医療の最先端を知る～	35
	提案28	公開シンポジウム「実践や学問構築に活かす質的研究」	37
	提案29	公開シンポジウム「哲学・倫理・宗教教育はなぜ必要か―初等・中等教育における哲学・倫理・宗教教育の意義と可能性―」	39
6 イベント	提案30	「科学・技術フェスタ in 京都-平成22年度産学官連携推進会議-」	41
	提案31	「平成22年度女子中高生夏の学校2010～科学・技術者のたまごたちへ～」	45
7 後援	提案32	国内会議	54
	提案33	国際会議	55

1 2	
幹事会	9 6

提 案

提言「我が国における遺伝子組換え植物研究とその実用化に関する現状と問題点」

- 1 提 案 者 基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長
農学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「我が国における遺伝子組換え植物研究とその実用化に関する現状と問題点」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

1 3	
幹事会	9 6

提 案

産学官連携功労者表彰要領について

- 1 提案者 会長
- 2 議案 標記について、別紙案のとおり決定すること。
- 3 提案理由 従来、会長決定として定めていた産学官連携功労者表彰要領について、幹事会決定として定めたいため。

(別紙)

産学官連携功労者表彰要領(案)

平成22年○月○日
日本学術会議第○○回幹事会決定

(目的)

第1 大学等(公的研究機関を含む。以下同じ。)企業等における産学官連携活動において大きな成果を収め、また、先導的な取組を行う等当該活動の推進に多大な貢献をした産学官連携の優れた成功事例に関し、その功績を称えることにより、我が国の産学官連携活動の更なる進展に寄与することを目的として、年1回開催される産学官連携推進会議において実施する。

(表彰の対象)

第2 表彰は、次の各号の一の分野において、学術の視点から特に顕著な功績又は功労があったと認められる者(個人又はグループ・団体)に対して行う。

- (1) 企業等と大学等との共同研究・受託研究等による成果の事例
- (2) 大学等の研究成果である特許・ノウハウの企業等へ技術移転を行い製品化した成果の事例
- (3) 大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出等の成果の事例
- (4) 地域における産学官連携による成果の事例
- (5) その他産学官連携による優れた成果の事例

(表彰者)

第3 日本学術会議会長(以下「会長」という。)

(表彰の方法)

第4 表彰状及び記念品

(表彰の時期)

第5 表彰は、年1回行う。

(被表彰者の決定)

第6 関係府省より推薦された候補者のうちから、内閣府に設置される選考委員会の意見を聴いて、会長が、被表彰者を決定する。

会長は、被表彰者の決定後、速やかに幹事会にその旨を報告するものとする。

(表彰の事務)

第7 表彰に関する事務は、関係府省の協力を得て、日本学術会議事務局において行う。

(その他)

第8 この表彰は、平成15年から10年間に限り実施することとする。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

新旧対照表

新規規程（案）	現行規程
産学官連携功労者表彰要領（案） 平成 <u>22</u> 年 <u>○</u> 月 <u>○</u> 日 日本学術会議第 <u>○○</u> 回幹事会決定 （目的） 第1 大学等（公的研究機関を含む。以下同じ。）、企業等における産学官連携活動において大きな成果を収め、また、先導的な取組を行う等当該活動の推進に多大な貢献をした産学官連携の優れた成功事例に関し、その功績を称えることにより、我が国の産学官連携活動の更なる進展に寄与することを目的として、年1回開催される産学官連携推進会議において実施する。 （表彰の対象） 第2 表彰は、次の各号の一の分野において、学術の視点から特に顕著な功績又は功労があったと認められる者（個人又はグループ・団体）に対して行う。 （1）企業等と大学等との共同研究・受託研究等による成果の事例 （2）大学等の研究成果である特許・ノウハウの企業等へ技術移転を行い製品化した成果の事例 （3）大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出等の成果の事例 （4）地域における産学官連携による成果の事例 （5）その他産学官連携による優れた成果の事例	産学官連携功労者表彰要領 平成 <u>15</u> 年 <u>5</u> 月 <u>19</u> 日 日本学術会議会長決定 <u>（平成19年12月25日一部改正）</u> （目的） 第1 大学等（公的研究機関を含む。以下同じ。）、企業等における産学官連携活動において大きな成果を収め、また、先導的な取組を行う等当該活動の推進に多大な貢献をした産学官連携の優れた成功事例に関し、その功績を称えることにより、我が国の産学官連携活動の更なる進展に寄与することを目的として、年1回開催される産学官連携推進会議において実施する。 （表彰の対象） 第2 表彰は、次の各号の一の分野において、学術の視点から特に顕著な功績又は功労があったと認められる者（個人又はグループ・団体）に対して行う。 （1）企業等と大学等との共同研究・受託研究等による成果の事例 （2）大学等の研究成果である特許・ノウハウの企業等へ技術移転を行い製品化した成果の事例 （3）大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出等の成果の事例 （4）地域における産学官連携による成果の事例 （5）その他産学官連携による優れた成果の事例

新規規程（案）	現行規程
（表彰者） 第 3 日本学術会議会長（以下「会長」という。） （表彰の方法） 第 4 表彰状及び記念品 （表彰の時期） 第 5 表彰は、年 1 回行う。 （被表彰者の決定） 第 6 関係府省より推薦された候補者のうちから、内閣府に設置される選考委員会の意見を聴いて、会長が、被表彰者を決定する。 <u>会長は、被表彰者の決定後、速やかに幹事会にその旨を報告するものとする。</u> （表彰の事務） 第 7 表彰に関する事務は、関係府省の協力を得て、日本学術会議事務局において行う。 （その他） 第 8 この表彰は、平成 1 5 年から 1 0 年間に限り実施することとする。 <u>附 則</u> <u>この決定は、決定の日から施行する。</u>	（表彰者） 第 3 日本学術会議会長 （表彰の方法） 第 4 表彰状及び記念品 （表彰の時期） 第 5 表彰は、年 1 回行う。 （被表彰者の決定） 第 6 関係府省より推薦された候補者のうちから、内閣府に設置される選考委員会の意見を聴いて、<u>日本学術会議会長</u>が、被表彰者を決定する。 （表彰の事務） 第 7 表彰に関する事務は、関係府省の協力を得て、日本学術会議事務局において行う。 （その他） 第 8 この表彰は、平成 1 5 年から 1 0 年間に限り実施することとする。

第8回産学官連携功労者表彰

日本学術会議会長賞

大規模トキシコゲノミクスデータベースを活用した新規安全性バイオマーカーの開発

大野 泰雄

国立医薬品食品衛生研究所 副所長

漆谷 徹郎

独立行政法人医薬基盤研究所 プロジェクトリーダー、同志社女子大学薬学部 教授

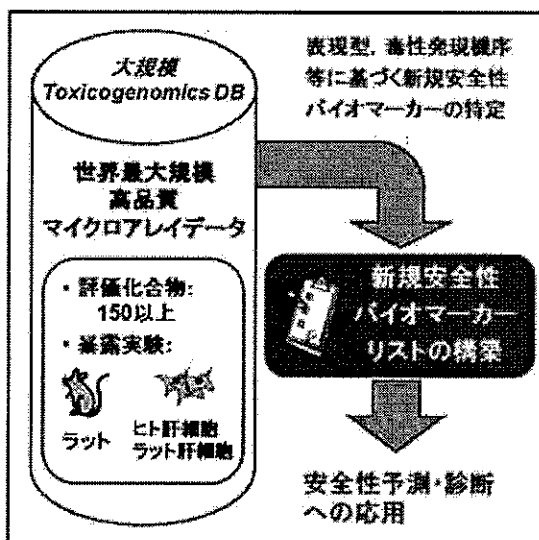
トキシコゲノミクス・インフォマティクスプロジェクト参加製薬企業13社

受賞理由

トキシコゲノミクス・インフォマティクスプロジェクトでは、国立研究施設及び参加企業13社が連携し、これまでに構築した大規模かつ良質な世界トップレベルのトキシコゲノミクスデータベースにインフォマティクス技術を活用することにより、これまでに安全性バイオマーカー候補36個の抽出を完了し、ヒトでの安全性予測・診断への応用可能なバイオマーカーをここから複数特定している。

開発した安全性バイオマーカーは、より安全性の高い医薬品の開発、及び医薬品研究開発の期間短縮・コスト削減に貢献すると考えられる。

本事例は、参加企業、研究施設が組織の壁を取り払って強固な連携体制を構築した産学官連携の好事例であり、表彰に値する。



新規安全性バイオマーカーの開発

第8回産学官連携功労者表彰 受賞事例一覧

表彰の種類	事例名	功労者
内閣総理大臣賞	世界に先駆け「エネファーム」を製品化	<u>永田裕二</u> 東芝燃料電池システム株式会社技師長
科学技術政策担当大臣賞	脳腫瘍の完全摘出技術の開発	<u>村垣善浩</u> 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 先端工学外科学分野 准教授 <u>渡部滋</u> 株式会社日立メディコ メディカルITシステム本部 本部長 <u>南部恭二郎</u> 東芝メディカルシステムズ株式会社 研究開発センター戦略開発部 戦略企画担当 主査
科学技術政策担当大臣賞	新型インフルエンザを医療現場において15分で確定診断可能な簡易検査法の開発	<u>秋山徹</u> 独立行政法人国立国際医療研究センター研究所 室長 <u>樽原謙次</u> 株式会社ミズホメディイ 第一開発部 部長
総務大臣賞	「ネットワーク触覚インターフェイス」の実用化	<u>川崎晴久</u> 岐阜大学工学部人間情報システム工学科 教授 <u>石橋康彦</u> 株式会社丸富精工 開発設計課 課長 <u>松村雅人</u> イー・パレイ株式会社 取締役
総務大臣賞	眼科遠隔診療システムの開発	<u>郷健太郎</u> 山梨大学大学院医学工学総合研究部 医学・工学融合学域 生体環境医学工学系 准教授 <u>柏木賢治</u> 山梨大学大学院医学工学総合研究部 医学学域 臨床医学系(地域医療学) 准教授
文部科学大臣賞	「超ハイブリッド材料」の開発	<u>阿尻雅文</u> 東北大学原子分子材料科学高等研究機構 教授 <u>市川和義</u> 財団法人化学技術戦略推進機構研究開発事業部 技術部長 <u>山内幸彦</u> 独立行政法人産業技術総合研究所 計測フロンティア研究部門 副研究部門長
文部科学大臣賞	鋳造CAEシステム「ADSTEFAN」の開発	<u>安斎浩一</u> 東北大学大学院工学研究科 教授 <u>高橋重</u> 株式会社日立製作所 日立研究所 主任研究員 <u>谷本雅俊</u> 茨城日立情報サービス株式会社 ADSTEFANセンタ 副センタ長
文部科学大臣賞	「アレルギーキャッチャー製品群」の開発	<u>白井汪芳</u> 信州大学名誉教授 <u>ダイワボウノイ株式会社</u> <u>株式会社信州TLO</u>

厚生労働 大臣賞	「新方式デジタルマンモ グラフィ」の開発	遠藤登喜子 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター高度診断研究部部長、 放射線科部長 千代知成 富士フイルム株式会社 メディカルシステム開発センター 主任研究員
農林水産 大臣賞	植物ウイルス病ワクチン の開発と製品化	小坂能尚 京都府農林水産技術センター生物資源研究センター 所長 夏秋知英 宇都宮大学農学部 教授 株式会社微生物化学研究所
経済産業 大臣賞	「次世代ハードディスク (パターンド・メディア)用 電子線マスタリング装 置」の開発	本目精吾 株式会社エリオニクス 代表取締役会長 中谷功 独立行政法人物質・材料研究機構 特別研究員 新野秀憲 東京工業大学 精密工学研究所 教授
経済産業 大臣賞	中小企業が主役となり、 着実に成果に結びつけ る産学官連携システムH oPE	荒磯恒久 北海道大学産学連携本部副本部長、TLO部門長、教授 HoPE運営委員長 嶋田秀一 前 北海道立工業試験場技術支援センター 所長、前 HoPE企画委員長 渡邊民嗣 三晃化学株式会社 代表取締役、HoPE代表世話人
国土交通 大臣賞	「居眠り運転警告シート」 の開発	金子成彦 入眠予兆研究会代表、東京大学大学院工学系研究科 教授
国土交通 大臣賞	「鋼製ストラット付きコン クリートツインアーチ橋」 の高度施工技術	二羽淳一郎 東京工業大学大学院 教授 ※ 山田均 横浜国立大学大学院 教授 富徳裕平 大林組・ピーエス三菱共同企業体 フーバーダム橋工事事務所 工事長
環境 大臣賞	少水量対応高効率地中 熱利用ヒートポンプシス テムの開発	中村靖 新日鉄エンジニアリング株式会社 シニアマネジャー 長野克則 北海道大学大学院工学研究院 教授 葛隆生 北九州市立大学国際環境工学部 講師
日本 経済団体 連合会 会長賞	電気絶縁性と柔軟性を 両立させた超長寿命絶 縁材料の開発	佐藤一彦 独立行政法人産業技術総合研究所 環境化学技術研究部門 主幹研究 員 島田広道 独立行政法人産業技術総合研究所 つくばセンター 次長 内田博 昭和電工株式会社 コーポレートフェロー
日本 学術会議 会長賞	大規模トキシコゲノミクス データベースを活用した 新規安全性バイオマー カーの開発	大野泰雄 国立医薬品食品衛生研究所副所長 漆谷徹郎 独立行政法人医薬基盤研究所プロジェクトリーダー、同志社女子大学薬 学部教授 トキシコゲノミクス・インフォマティクスプロジェクト参加製薬企業13社

※ 第21期連携会員

1 4	
幹事会	9 6

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 日本リハビリテーションネットワーク研究会
- ・ 日本脳科学会
- ・ 日本生物高分子学会
- ・ 脳機能とリハビリテーション研究会
- ・ 日本唾液腺学会
- ・ 日本幼少児健康教育学会
- ・ 社会学系コンソーシアム
- ・ 日本獣医師会

平成 22 年 5 月 27 日現在 1,796 団体(上記申請団体を含む。)

団体の概要

- ・ 日本リハビリテーションネットワーク研究会
リハビリテーションを実践している施設におけるチームワークと施設間のネットワークおよび関連した問題に関心を寄せる全ての人々が、相互の交流と研鑽を通じてリハビリテーションの充実・前進を図ることを目的としている。
- ・ 日本脳科学会
生命体の行動および恒常性維持ならびに人のこころの健康に、脳神経系がどのように関与しているかの総合的、学際的研究を促進することを目的としている。
- ・ 日本生物高分子学会
生物高分子に関する基礎と応用・開発及び細胞高分子の構造 - 機能解析とその活用に関する研究の発展を促進するとともに、多方面の分野における研究者の協力と研究情報の交流、産・官・学の連携強化を図ることを目的としている。
- ・ 脳機能とリハビリテーション研究会
脳機能の研究を進め、リハビリテーション医学の発展に貢献し、会員相互の研鑽と提携を図り、内外の学術団体とも協力し、もって学術、文化の発展に奇与することを目的としている。
- ・ 日本唾液腺学会
広く唾液腺に関する諸研究の国内および国際的な知識の交流、啓発をもって目的としている。
- ・ 日本幼少児健康教育学会
幼少児の健康教育に関する研究活動の充実と発展に貢献し、より具体的な方途を確立することを目指し、その実践に奇与することを目的としている。
- ・ 社会学系コンソーシアム
わが国の社会学系(社会福祉学・社会学)諸学術団体により成る連合体として、学術の発展に奇与し、広く社会へ貢献することを目的としている。
- ・ 日本獣医師会
獣医師道の高揚、獣医学術の振興・普及、獣医事の向上、獣医師の福祉の向上等を図ることにより、動物に関する保健衛生の向上、畜産の振興、公衆衛生の向上並びに動物の福祉及び愛護の増進に奇与することを目的としている。

1 5	
幹事会	9 6

提 案

平成 2 2 年度代表派遣について（平成 2 2 年 7 月～ 9 月分）

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第 19 条の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

（派遣者の選考）

第 1 9 条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第 7 に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の 1 か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	第38回宇宙空間研究委員会科学総会	7月18日 ～ 7月25日	8 日	ブレーメン	佐々木 晶 連携会員 国立天文台	COSPAR分科会 第1区分
				ドイツ		
2	第38回宇宙空間研究委員会科学総会	7月18日 ～ 7月25日	8 日	ブレーメン	中村 卓司 特任連携会員 国立極地研究所	COSPAR分科会 第1区分
				ドイツ		
3	第31回南極研究科学委員会 (SCAR) 総会・シンポジウム・代表者会合	7月30日 ～ 8月11日	13 日	ブエノスアイレス	山内 恭 特任連携会員 情報・システム研究機構国立極地研究所	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第1区分
				アルゼンチン		
4	第19回世界土壌科学会議	8月1日 ～ 8月6日	6 日	ブリスベン	波多野 隆介 特任連携会員 北海道大学大学院農学研究院	IUSS分科会 第1区分
				オーストラリア		
5	第19回世界土壌科学会議	8月1日 ～ 8月6日	6 日	ブリスベン	犬伏 和之 特任連携会員 千葉大学大学院園芸学研究科	IUSS分科会 第1区分
				オーストラリア		
6	第19回世界土壌科学会議	8月1日 ～ 8月6日	6 日	ブリスベン	小崎 隆 特任連携会員 首都大学東京都市環境科学研究科	IUSS分科会 第1区分
				オーストラリア		
7	国際宗教学宗教史会議 (IAHR) 第20回世界大会	8月15日 ～ 8月22日	8 日	トロント	藤原 聖子 特任連携会員 大正大学	哲学委員会 第3区分
				カナダ		
8	国際数学連合 (IMU) 総会及び国際数学者会議	8月16日 ～ 8月27日	12 日	バンガロール、ハイデラバード*	柏原 正樹 第三部会員 京都大学数理解析研究所	数理科学委員会 第1区分
				インド		
9	国際数学連合 (IMU) 総会及び国際数学者会議	8月16日 ～ 8月27日	12 日	バンガロール、ハイデラバード*	坪井 俊 連携会員 東京大学大学院数理科学研究科	数理科学委員会 第1区分
				インド		
10	国際数学連合 (IMU) 総会及び国際数学者会議	8月16日 ～ 8月27日	12 日	バンガロール、ハイデラバード*	宮岡 洋一 連携会員 東京大学大学院数理科学研究科	数理科学委員会 第1区分
				インド		
11	第20回国際鉱物学連合総会	8月21日 ～ 8月27日	7 日	ブタペスト	山中 高光 特任連携会員 Carnegie Institute of Washington Geophysical Laboratory	IMA分科会 第1区分
				ハンガリー		
12	第20回国際鉱物学連合総会	8月21日 ～ 8月27日	7 日	ブタペスト	赤荻 正樹 特任連携会員 学習院大学理学部	IMA分科会 第1区分
				ハンガリー		
13	第21回国際歴史学会議	8月22日 ～ 8月28日	7 日	アムステルダム	三谷 博 連携会員 東京大学大学院総合文化研究科	国際歴史学会議等分科会 第1区分
				オランダ		
14	2010年度海洋研究科学委員会 (SCOR) 総会	9月13日 ～ 9月17日	5 日	トゥールーズ	田口 哲 特任連携会員 創価大学大学院工学研究科	SCOR分科会 第1区分
				フランス		
15	2010年度海洋研究科学委員会 (SCOR) 総会	9月13日 ～ 9月17日	5 日	トゥールーズ	池田 元美 特任連携会員 北海道大学	SCOR分科会 第1区分
				フランス		

1 6	
幹事会	9 6

提 案

英国王立協会創立 350 周年記念行事等への会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、日本学術会議から金澤一郎会長（第 2 部会員）を派遣すること
- 3 提案理由 英国王立協会と日本学術会議とは、これまで強い協力関係の基、様々な国際活動（G8 学術会議、IAC/IAP、日英二国間ワークショップ他）を行っている。その重要な関係を鑑み、英国王立協会の創立 350 周年記念行事に日本学術会議会長が参加することは、非常に意義深いと判断される。併せて、英国王立協会関係者等との面談により、科学技術政策とアカデミーについての問題を始めとし、大学における研究費の在り方や、若手研究者からの意見集約等について、幅広い意見交換を行うこととしており、これも常に重要であると判断される。
- 4 派遣者 金澤一郎 （会長、第二部会員）
- 5 会議期間 平成 22 年 6 月 23 日（水）～ 24 日（木）
- 6 派遣場所 ロンドン及びケンブリッジ（英国）
- 7 開催趣旨 英国王立協会は、その創立 350 周年にあたり、各国から関係の深い団体・組織等の代表者を招待し、特別な記念行事を本年 6 月 23 日にロンドンにて開催する。詳細については、添付書類（金澤会長宛の招待状）を参照されたい。



THE ROYAL SOCIETY

6-9 Carlton House Terrace London SW1Y 5AG

020 7451 2507

president@royalsociety.org
royalsociety.org

Dr Ichiro Kanazawa
President
Science Council of Japan (SCJ)
22-34 Roppongi 7-Chome
Minato-Ku
Tokyo
106-8555
JAPAN

From the President Lord Rees of Ludlow OM

4 February 2010

Our ref: 2010/CONV

Dear Dr Kanazawa

Royal Society 350th anniversary Convocation – 23 June 2010

A Convocation of the Fellowship of the Royal Society will be held to mark its 350th Anniversary in the Royal Festival Hall, London during the afternoon of Wednesday 23 June 2010. This is the first time that such an event has been held since the Society's Tercentenary celebrations in 1960.

The Convocation will be followed by a reception which will be an excellent opportunity for you to see the Society's annual summer science exhibition also at the Royal Festival Hall and which forms part of a wider festival of science and the arts that will open to the general public later in the week.

As President of the Science Council of Japan, we would very much like you and a guest to share in this celebration which will be the centrepiece of the Royal Society's 350th Anniversary celebrations. A formal invitation will be sent out in April on receipt on your indication of whether or not you will be able to attend. Please complete the enclosed form and return to convocation@royalsociety.org or by post to Julie Hodgkinson, The Royal Society, 6-9 Carlton House Terrace, London, SW1Y 5AG. RSVP by Thursday 4 March 2010.

Martin Rees

President Lord Rees of Ludlow OM
Executive Secretary Stephen Cox cvo

Founded in 1660, the Royal Society
is the independent scientific academy
of the UK, dedicated to promoting
excellence in science

Registered Charity No 207043

17	
幹事会	96

提 案

公開シンポジウム「変容する芸術生成の場」の開催について

1. 提案者 哲学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議哲学委員会芸術と文化環境研究分科会
芸術学関連学会連合
2. 共 催 東京都現代美術館（東京都江東区三好 4-1-1）
3. 日 時 平成22年6月12日（土）13：00～16：45
4. 場 所 東京都現代美術館講堂
5. 分科会 同日に分科会開催予定

6. 開催趣旨

芸術と芸術にあらざるものとの境界線。それは作者の作り出した作品が観者という第三者の目に触れて下される評価に基づく。その意味で芸術とは、作品の公開にあたって生まれるものであるとの見方を可能とする。そのような、いわば人と人との関係性の中に生成する芸術とは、きわめて社会的な存在であり、これらをつなぐ「場」のあり方も芸術生成に深く関わる問題といえよう。

芸術生成の「場」の変容は、芸術と生活の切断や、作者 - 作品 - 鑑賞者関係などの変容をも随伴しながら、芸術とは何かという問いを深部から投げかけるにいたった。

本シンポジウムは、現代的視座に立ちながら、変容する芸術生成の「場」の提起する諸問題について、芸術学関連の各専門分野から横断的かつ鋭角的に論じ合い、解明の契機を探ろうとするものである。

7. 次 第

開会挨拶（13:00～13:10）

西村 清和（日本学術会議連携会員、東京大学、芸術学関連学会連合長）

長谷川祐子（東京都現代美術館、共催者代表）

シンポジウム趣旨（13:10～13:20）

稲木 吉一（女子美術大学、美術史学会）
長田 謙一（首都大学東京、美術科教育学会）
報 告（13:20～14:10）
森 司（東京文化発信プロジェクト室、ゲスト）
「東京アートポイント計画」
椎原 伸博（実践女子大学、美学会）
「アートがプロジェクトになるとき」
休 憩（14:10～14:20）
報 告（14:20～15:35）
関 直子（東京都現代美術館、美術史学会）
「キャプション - 作品生成をめぐる一つの場 - 」
尼ヶ崎 彬（学習院大学、舞踏学会）
「ダンスの生成」
奥村 高明（国立教育政策研究、美術科教育学会）
「美術教育に生きる子ども - 学校や美術館の現場 - 」
休 憩（15:35～15:45）
ディスカッション（15:45～16:45）
司会・コーディネーター
稲木 吉一、長田 謙一
前田富士男（日本学術会議会員、中部大学、
日本学術会議哲学委員会芸術と文化環境分科会委員長）

8．関係部の承認の有無：第一部承認

1 8	
幹事会	9 6

提 案

公開シンポジウム「ジェンダーから展望する新しい社会のしくみ：
女性の貧困・雇用・年金」の開催について

- 1．提案者 社会学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催 日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会
- 2．共 催 京都大学文学研究科 GCOE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」
- 3．日 時 平成22年6月13日(日) 13:00～17:00
- 4．場 所 東京大学文学部1大教室
- 5 分科会 同日に分科会開催予定

6．開催趣旨

深刻化する貧困と失業、年金など社会保障制度への不信など、現在の日本社会が機能不全に陥っているのは誰の目にも明らかです。しかし、明快な原因解明も、信頼できる代替案の提案もなされず、「新しい社会のしくみ」はなかなか見えてきません。

本シンポジウムでは、女性の貧困・雇用・年金に深刻な形で表れているこの社会の問題点の検討を通じて、「失われた20年」に終止符を打ち、日本を再生させるためには、ジェンダー役割を組み替える新たな社会の枠組み作りが不可欠だということを、学術的な根拠をもって主張していきます。

近代の変容についてのマクロな歴史的展望と、ヨーロッパとアジアの諸社会の経験に学ぶグローバルな視野をもった冷静な分析から、現実的な政策転換の方向性の提案につなげていきます。ラウンドテーブルでは、政党、労働組合、先進的な取り組みの企業方々等と、研究者との対話の機会を設けて、より具体的な政策を論じます。

- 7．次 第
 - 司会 岡野 八代(同志社大学教授、日本学術会議連携会員)
 - 開会挨拶(13:00～13:10)

上野千鶴子（東京大学教授、日本学術会議会員）
ビデオ「女性の貧困」上映（13:10～13:40）
（制作：阿部彩・岩井八郎・土佐尚子・落合恵美子）
企画の趣旨（13:40～13:50）
落合恵美子（京都大学教授・日本学術会議会員）
雇用への展望（13:50～14:30）
大沢真知子（日本女子大学教授）
「日本型ワーキングプアの本質」
政策への展望（14:30～15:10）
大沢 真理（東京大学教授・日本学術会議会員）
「再分配が深める貧困大国ニッポン」
休憩（15:10～15:30）
ラウンドテーブル（15:30～17:00）司会 落合恵美子
山口 洋子（連合副事務局長、女性代表）ほか

8．関係部の承認の有無：第一部承認

19	
幹事会	96

提 案

公開シンポジウム（労働政策フォーラム） 「若者問題への接近：自立への経路の今日的あり方をさぐる」の開催について

- 1．提案者 社会学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1．主 催 日本学術会議社会学委員会社会変動と若者問題分科会
労働政策研究・研修機構（JILPT）
- 2．共 催 なし
- 3．日 時 2010年7月3日（土）13：30～17：00
- 4．場 所 浜離宮朝日ホール
（東京都中央区築地5 - 3 - 2 朝日新聞社新館2階）
- 5．分科会 同日に分科会開催予定
- 6．開催趣旨

昨年度のシンポジウム（労働政策フォーラム）では若者の自立（特に労働に焦点を置いて）の課題を検討し、幅広い課題に包括的に対応する必要性明らかにされた。これを受けて、自立を支えてきた社会的装置（学校、企業、職業訓練、自立支援機関など）の現状と課題を検討し、包括的支援政策の具体的な方向性を検討する。

- 7．次 第
趣旨説明： 小杉礼子（日本学術会議連携会員、JILPT 統括研究員）（5分）

講 演（各25分）

- 1）自立に向けての高校生の現状と課題
藤田晃之（国立教育政策研究所総括研究官）
- 2）企業の果たしてきた役割と今後の方向性：キャリア形成と非典型雇用
佐藤博樹（日本学術会議連携会員、東京大学社会科学研究所教授）

3) 雇用保険でもなく、生活保護でもない第2のセーフティネット伴走型支援
- 支援の現場でみえてきたこと—

湯浅 誠(NPO自立生活サポートセンター「もやい」事務局長、
反貧困ネットワーク事務局長)

4) 成人期への移行政策の課題と構想

宮本みち子(日本学術会議連携会員、放送大学教養学部教授)

討 論

パネリスト：報告者(上記4名)

コメンテーター：太郎丸博(日本学術会議特任連携会員、京都大学准教授)

コーディネーター：小杉礼子(日本学術会議連携会員、JILPT 統括研究員)

8. 参加申込方法

労働政策研究・研修機構のホームページからの申込が便利です。また、E-mail、Faxにて必要事項(氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス)をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛にもお申し込みできます。

労働政策研究・研修機構 広報企画課

TEL：03-5903-6264(平日 9:00 ~ 17:30)

<http://www.jil.go.jp/event/>

FAX：03-5903-6114 / E-mail：forum@jil.go.jp

* 定員(300名)となり次第、締め切りとさせていただきます。

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

20	
幹事会	96

提 案

市民公開シンポジウム「市民社会のなかの人文・社会科学 - 市民との対話 - PART 2」 の開催について

1. 提案者 第一部長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議第一部、東北大学
2. 後 援 (財)日本学術協力財団
3. 日 時 2010年7月25日(日) 14:00～17:00
4. 場 所 東北大学マルチメディア教育棟 2階マルチメディアホール
(宮城県仙台市青葉区川内41)
5. 部 会 平成22年7月24日(土) 13:00～14:30
平成22年7月25日(日) 10:00～12:00
6. 開催趣旨

昨年、の北海道大学で開催した第一部夏季部会を経験を踏まえ、今年、東北大学で開催する夏季部会においても、日本学術会議の活動の一環として、人文・社会科学の諸学問が現代社会に生起している様々な課題にいかに取り組んでいるか周知することを目的に、「市民公開シンポジウム 市民社会のなかの人文・社会科学 - 市民との対話 - PART 2」を開催する。

この趣旨から、講演のテーマとして「新しい公共性」、「貨幣・法・言語と人間社会」、「危機方言」、「平泉遺跡群の評価」といった身近な問題を取り上げるものである。

7. 次 第
 - 開会挨拶(14:00～14:15)
 - 広渡 清吾(日本学術会議第一部長、専修大学法学部教授)
 - 井上 明久(東北大学総長)

講 演(14:15～16:50)

- 司会 木村 茂光（日本学術会議第一部幹事、東京学芸大学教育学部教授）
- （１）「日本の危機方言とその将来」（14:15～14:50）
木部 暢子（日本学術会議連携会員、人間文化研究機構国立国語研究所副所長）
- （２）「都市平泉の遺産」（14:50～15:25）
人間田宣夫（東北大学名誉教授・東北芸術効果大学教授）
～ 休 憩 ～（15:25～15:40）
- （３）「共生社会をめざして - 新しい公共性 - 」（15:40～16:15）
今田 高俊（日本学術会議会員、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）
- （４）「貨幣・法・言語と『人間』
- なぜ人文社会科学も『科学』であるのか - 」（16:15～16:50）
岩井 克人（日本学術会議会員、国際基督教大学客員教授）

閉会挨拶（16:50～17:00）

栗原 和枝（日本学術会議会員、日本学術会議東北地区会議代表幹事、
東北大学多元物質科学研究所教授）

2 1	
幹事会	9 6

提 案

「場の感性」の蘇生に向けての開催について

1. 提案者 哲学委員会委員長、環境学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議 哲学委員会 芸術と文化環境分科会
環境学委員会 環境思想・環境教育分科会
2. 共 催： 富山県立立山博物館
3. 日 時： 平成 22 年 7 月 26 日（月）
4. 場 所： 富山県立立山博物館
5. 委員会等の開催：同日、哲学委員会 芸術と文化環境分科会
環境学委員会 環境思想・環境教育分科会を開催
6. 開催趣旨：

現代の学術的活動は、各専門領域の先端性・先導性を指標とし、多大な成果をあげてきた。しかし他方で、学術が本来具備すべき「知の全体性」を見失いがちな道を歩んできたことは、疑いえないであろう。あらためて、自然と文化を包括する「環境（フィールド）」の観点に身をおき、学術のありようの基盤を問いかける取り組みが求められる現在である。

日本学術会議第一部の芸術と文化環境分科会と第三部の環境思想・環境教育分科会はともに、生活世界における「場の力／場の感性（センス・オブ・プレイス）」の重要性を確認してきた。人間の生と知の本来的な姿が現れるのは、施設や装置においてではなく、自然と歴史とが豊かに交わりあう「環境」というフィールドの只中においてだからである。

富山県立立山博物館は、峻厳な自然環境の立山山麓に位置し、また平安時代中期に起源をもつ立山信仰の歴史をふまえ、自然史と文化史とを接続する際だった教育・研究活動で知られる。教界・聖界・遊界という視点にもとづく同館

の展示活動は、単に立山という場にとどまらず、実は現代社会における「知の全体性」の場の蘇生にむけた果敢な問題提起にほかならない。

本シンポジウムは、現代の文化環境の蘇生にむけて「場の感性」をキーワードとし、日本学術会議と開設 20 周年を迎える立山博物館が協力し、立山の「場」、「界」にて開催を試みるものである。

7. 次 第

セッション 1 : 「立山の<場の力>とは？」 10:00-12:00

報告：米原寛（立山博物館館長）

福江充（立山博物館）

コメンテーター：岩城見一（前・京都国立近代美術館館長 /
日本学術会議連携会員）、原口志津子（富山県立大学）

モデレーター：前田富士男（中部大学 / 日本学術会議会員）

セッション 2 : 「<場の力>をいかに生かすか」 13:00-14:30

報告：梅原賢一郎（京都造形大学）

鳥越けい子（青山学院大学 / 日本学術会議連携会員）

コメンテーター：尼ヶ崎彬（学習院大学）

モデレーター：外山紀久子（埼玉大学 / 日本学術会議連携会員）

セッション 3 : 「<場の感性>をいかに学び伝えるか」 14:45-16:30

報告：鬼頭秀一（東京大学 / 日本学術会議連携会員）

コメンテーター：佐伯安一（富山県民俗の会）

モデレーター：進士五十八（早稲田大学 / 日本学術会議会員）

総合司会：小澤紀美子（東海大学 / 日本学術会議連携会員）

前日の 7 月 25 日には「プレイベント」として、立山権現祭り（地元集落の山開き催事）の見学や、集落と博物館全体のツアー等を計画している。

8. 関係部の承認の有無：第一部・第三部承認

9. 申し込み方法：郵送とファックス（検討中）

連絡先：富山県立立山博物館 〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺 93-1

Tel. (076) 481-1216 Fax. (076) 481-1144

2 2	
幹事会	9 6

提 案

公開シンポジウム「健康の社会格差 - 今、多様な知を結集し、すべての人々に生きやすい社会を」の開催について

- 1．提案者 社会学委員会委員長、経済学委員会委員長、
基礎医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1．主 催：
日本学術会議社会学委員会社会調査分科会、
同社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会、
同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会、
文部科学省科学研究費新学術領域研究「現代社会の階層化の機構理解と格差の
制御：社会科学と健康科学の融合」
- 2．日 時：平成22年7月30日（金）13：00～17：00
- 3．場 所：日本学術会議講堂
（分科会とシンポジウム控室として、会議室3～4室を使用予定）
- 4．分科会：分科会開催予定
- 5．開催趣旨：
健康の社会経済状態による格差への関心が高まっている。貧困層、失業者・非正規雇用者など社会制度の保護を受けにくい人々等における健康問題や医療へのアクセスの困難さのみでなく、社会経済状態による子どもや高齢者の健康の格差の広がり、また経済不況下における障害者にも懸念が広がっている。このシンポジウムでは、保健医療分野のみならず、福祉学、社会学、教育学、法学などの視点から総合的に今日の健康の社会格差の現状と課題を明らかにし、社会の中でさまざまな人々が共に、健康に生きることのできる社会を作るための方策について議論する。

6．シンポジウム次第

座長：川上憲人（日本学術会議連携会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会委員、文部科学省科学研究費新学術領域研究「社会階層と健康」領域代表、東京大学大学院教授）
安村誠司（日本学術会議連携会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同「パブリックヘルス科学分科会」委員、福島県立医科大学教授）

演者およびテーマ

- （１）日本の健康格差・貧困問題：我が国における特徴と課題
岸 玲子（日本学術会議会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会委員長、北海道大学大学院教授）
- （２）社会調査から見たわが国の社会格差と健康格差の問題
盛山和夫（日本学術会議連携会員、同社会学委員会社会調査分科会委員長、東京大学大学院教授）
- （３）健康格差と日本の子どものヘルスプロモーション
實成文彦（日本学術会議連携会員、同健康・生活科学委員会子どもの健康分科会委員長、山陽学園大学副学長）
- （４）高齢者の well-being（幸福・健康）における格差
近藤克則（日本福祉大学教授）
- （５）拡大する健康格差に対する包括的対策プログラムの検討
高野健人（日本学術会議連携会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会委員、健康都市と都市政策に関する WHO 研究協力センターおよび Alliance for Healthy Cities (AFH) 代表、東京医科歯科大学大学院教授）
- （６）健康の社会格差とこれからの医療政策（仮）
二木 立（日本学術会議連携会員、同社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会委員、日本福祉大学副学長・教授）

7．関係部の承認の有無：第一部承認、第二部承認

2 3	
幹事会	9 6

提 案

公開シンポジウム「初等・中等教育における「いのちの教育」に関わる
看護からの提言」の開催について

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会、日本看護学教育学会
2. 後 援：文部科学省初等中等教育局（予定）
3. 日 時：平成22年8月1日（日）9：00～11：30
4. 場 所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）会議室 1009
〒530-0005 大阪市北区中の島5-3-51
5. 分科会の開催：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

文部科学省では、「生きる力」をキーワードとした学習指導要領の改訂が行われ、将来の超高齢社会を見据えた「いのちの教育」を大事にする指導指針が示された。この変化は看護学にとっても、次代を担う人材育成の観点から重要な課題である。

日本学術会議の最重要機能は、政府・行政への政策提言である。このことから、今回の企画では、「いのちの教育」に関連の深い看護系学会である「日本看護学教育学会」が主催する学術集会において、将来を見据えた初等・中等教育への関わりを議論し、日本学術会議の掲げる「意欲ある人材の養成と能力開発、人類の知的基盤形成・・・」あるいは「豊かな社会形成のために必要なイノベーション」を実現していくための看護の新たな役割について、次世代の社会を見据えた具体案の作成を目指して検討したい。

そこで今回、第20回日本看護学教育学会学術集会（大阪）において、標記の公開シンポジウムを企画した。このシンポジウムでは、日本学術会議の看護学分科会で討議してきた経緯や趣旨・内容などについて紹介し、初等・中等教育に直接関わっておられる行政官や、教育現場の教師、さらにそれらを支える地域住民が、「いのちの教育」をどのように捉え・実践で応用しているのか、その中で将来的展望に立って看護がどのように関わることが可能なのか、どのような社会的な役割を果たせるのか、などについて、政策提案なども含めた方略について模索したい。

7．次第

○趣旨説明

座長 南 裕子（日本学術会議会員、近大姫路大学長）

○シンポジストによる講演

（１）川口孝泰（日本学術会議連携会員、筑波大学人間総合科学研究科教授）

（２）和住淑子（千葉大学大学院看護学研究科准教授・日本看護学教育学会理事）

（３）古在豊樹（日本学術会議連携会員、千葉大学特任教授・前千葉大学長）

（４）井部俊子（日本学術会議連携会員、聖路加看護大学長）

（５）大橋泰久（文部科学省初等中等教育局 教科調査官）

○総合討議

○閉会の挨拶

8．関係部の承認の有無：第二部承認

2 4	
幹事会	9 6

提 案

ロボット学分科会シンポジウムの開催について

- 1．提案者 機械工学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催：日本学術会議機械工学委員会ロボット学分科会
- 2．共 催：日本ロボット学会
- 3．日 時：平成 22 年 8 月 2 日（月）13：00～17：30
- 4．場 所： 東京大学 小柴ホール（本郷キャンパス）
- 5．分科会の開催：有 17:30 - 19:30
- 6．開催趣旨：

誕生以来約 40 年、日本では主に機械工学の分野で、欧米では主に計算機科学や電気工学の分野で成長してきたロボットは、未来社会の中で人間と共存し人々の暮らしを支える生活パートナー的な存在へ進化し、新しい産業の創成に資することが期待されるようになった。それと共に、ロボットに関する学術は、従来の理工学の枠を超えて、脳科学、人間科学、社会科学を含む幅広い総合科学として発展していくことが必要となった。本シンポジウムでは、このような状況にかんがみ、機械工学、情報工学、電子工学、総合工学などの関連分野との連携のもとに、人間、社会、文化まで視野を広げて、分野横断的な総合科学としてのロボット学の諸様相について幅広く議論し、その学術的枠組、解決すべき問題、社会および産業にたいする貢献と役割について整理し、今後の発展方向をまとめる。

7. 次 第：

第1部 基調講演

「ロボット学の進化と未来（仮題）」

國吉 康夫（日本学術会議連携会員，東京大学教授）

第2部 講演

「全人間シミュレーション」

中村仁彦（東京大学教授）

「脳科学とロボット学の将来」

入来篤史（理化学研究所脳科学総合研究センター）

「工学としてのロボット学の進むべき道」

金子 真（日本学術会議連携会員，大阪大学教授）

「宇宙をヒューマノイドロボットが探検・開拓する未来」

毛利 衛（日本学術会議第三部会員，科学未来館館長，JAXA）

「ロボットで生まれる未来の芸術」

藤幡正樹（東京芸術大学教授）

第3部 パネル討論

「未来のロボット学とロボット活用社会」

司会：佐藤知正（日本学術会議連携会員，東京大学教授）

自由討論：中村仁彦，入来篤史，金子真，毛利衛，藤幡正樹，國吉康夫

[フロアより，ロボット学分科会委員が議論に参加]

提案：「ロボット未来研究所のイメージ」

井上 博允（日本学術会議連携会員，東京大学名誉教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

2 5	
幹事会	9 6

提 案

公開シンポジウム「遺伝子組換え作物とその利用に向けて」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長、食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会
2. 後 援：（調整中）
3. 日 時：平成 22 年 8 月 6 日（金）13:00-17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂
（委員会とシンポジウム控え室として、会議室 2 室を使用予定）
5. 委員会： 委員会開催予定
6. 開催趣旨：

遺伝子組換え植物（作物）においては、バイオテクノロジーにより、高収量性、環境耐性（耐干・冷・塩性など）作物が開発され、世界的には人口増加時代の食料問題解決法の一つの有効な技術として、すでに多くの国々で急速に普及している。しかし、我が国ではそのような状況になっていない。これには種々の理由があると考えられるが、実際にはその状況解明が十分把握できているとは思われない。現在、多くの食料品、添加物、各種工業資源として遺伝子組換え作物が導入されている現実があるものの、かなり多くの国民にはその実態が理解されていない状況にある。

我々は遺伝子組換え植物（作物）を普及・推進すべきであると考えている。しかし、今日においてもそのための普及活動が全く十分ではない状況である。したがって、ここに講演会・シンポジウムを開催して、遺伝子組換え作物の最先端技術の紹介とともに、社会的普及に向けての問題点などを抽出し、論議を行い、今後の提言あるいは推進への貴重な情報・資料としたい。

7. シンポジウム次第

プログラム（案）

13:00～13:10 開会挨拶

日本学術会議会長 金澤 一郎

13:10～13:15 開催趣旨説明

日本学術会議農学委員会委員長 真木 太一（筑波大学北アフリカ研究センター）

座長：西澤 直子（日本学術会議農学委員会副委員長、東京大学特任教授）

13:15～13:50 1. 環境ストレス耐性作物の開発について

篠崎 和子（東京大学大学院農学生命科学研究科 / 国際農林水産業 研究センター）

13:50～14:25 2. 医療に役立つ経口ワクチン米の開発について

高岩 文雄（農業生物資源研究所 遺伝子組換え作物開発センター）

清野 宏（東京大学医科学研究所）

14:25～15:00 3. 科学技術と社会 - 遺伝子組換え作物を素材とした検討

三石 誠司（宮城大学食産業学部 / 国際センター）

休憩：15:00～15:10

座長：磯貝 彰（日本学術会議食料科学委員会副委員長、奈良先端科学技術大学院大学）

15:10～15:45 4. 世界における遺伝子組換え作物の現状と社会受容に向けた活動

鎌田 博（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境科学研究科遺伝子実験センター）

15:45～16:20 5. 遺伝子組換え作物・食品をめぐるコミュニケーション

佐々 義子（くらしとバイオプラザ 21）

16:20～16:55 総合討論

司会：唐木 英明（日本学術会議副会長、東京大学名誉教授）

16:55～17:00 閉会挨拶

山内 皓平（日本学術会議食料科学委員会委員長、愛媛大学南予水産研究センター）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

26	
幹事会	96

提 案

市民公開講座「感覚器（視覚と聴覚）と社会とのつながり」の開催について

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記市民公開講座を下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会、
日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会
2. 日 時：平成22年8月10日（火）14：00～17：30
3. 場 所：日本学術会議講堂
（分科会とシンポジウム控室として、会議室2室を使用予定）
4. 分科会：分科会開催予定
5. 開催趣旨：
「感覚器（視覚と聴覚）と社会とのつながり」をテーマとして、一般市民向け市民公開講座を企画し、この領域の知識の普及をはかり、同時に専門家と市民との距離を短くする。現在の感覚器医学の進歩は著しいが、その内容は一般市民にまだ行き届いてはいないため、正しくその恩恵を受けているとは言い難い。正しい病院へのかかり方、市販されている支援グッズなどの正しい活用の仕方などを解説する。
6. シンポジウム次第
 - 主催者側挨拶 根木 昭（日本眼科学会理事長）
 - 趣旨と進行の説明
司会：加我 君孝（日本耳鼻咽喉科学会常任理事、日本学術会議連携会員）

石橋 達朗（日本眼科学会常務理事、日本学術会議連携会員）

○基調講演：

「これからの感覚器医療政策」

吉田 統彦（衆議院議員）

○講演

1. 「聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚および音声と社会とのつながり」

八木 聡明（千葉・柏リハビリテーション学院院長、日本学術会議連携会員）

2. 「全身疾患診療に役立つ眼科」

山下 英俊（山形大学 眼科教授、日本学術会議連携会員）

3. 「環境音と難聴」

原 晃（筑波大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授）

4. 「目に良い食べ物」

石田 晋（北海道大学 眼科教授）

5. 「補聴器—調整と購入をめぐる」

岡本 牧人（北里大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授）

6. 「コンタクトレンズ医療の最前線」

大橋 裕一（愛媛大学 眼科教授）

7. 「声を聞く—舌がんと喉頭がん手術後の声のコミュニケーション」

福田 諭（北海道大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授、日本学術会議連携会員）

8. 「眼科手術の進歩」

坂本 泰二（鹿児島大学 眼科教授、日本学術会議連携会員）

○質疑と討論

○閉会の挨拶 市川 銀一郎（日本耳鼻咽喉科学会理事長）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

27	
幹事会	96

提 案

日本学術会議第三部主催市民公開講演会 ～宇宙と生命医療の最先端を知る～の開催について

1. 提案者 第三部部长
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議第三部、金沢大学
2. 後 援：日本学術協力財団、石川教育委員会、金沢市教育委員会
3. 日 時：平成22年8月10日（火）15：00～17：00
4. 場 所：金沢大学角間キャンパス自然科学大講義棟レクチャーホール
5. 部会の開催：第三部会
6. 開催趣旨：
第三部が夏季部会を金沢で開催するにあたり、一般市民を対象とした講演会を開催する。内容としては、一般の聴衆に興味があり、また理解しやすい話題を、実際にその研究の第一線で活躍している科学者に話していただくことにし、「地下から宇宙をみる」、「人体の生化学工場：肝臓」の2テーマについて取り上げる。
7. 次 第：開会（15：00）
司 会：後藤 俊夫（中部大学副学長、日本学術会議第三部副部長）
挨 拶：岩澤 康裕（電気通信大学教授、日本学術会議第三部部长）
来賓挨拶：中村 信一（金沢大学学長、日本学術会議連携会員）

テーマ 1：講演題目「地下から宇宙をみる」

鈴木 洋一郎（東京大学教授、神岡実験施設長、日本学術
会議連携会員）

テーマ 2：講演題目「人体の生化学工場：肝臓」

金子 周一（金沢大学医学系教授）

閉会（17：00）

8．関係部の承認の有無：第三部承認

28	
幹事会	96

提 案

公開シンポジウム「実践や学問構築に活かす質的研究」の開催について

1. 提案者 心理学・教育学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議心理学・教育学委員会教育の質向上検討分科会
第57回日本学校保健学会年次学会
2. 共 催 なし
3. 日 時 平成22年11月28日（日）10時10分～11時50分
4. 場 所 女子栄養大学 坂戸キャンパス（埼玉県坂戸市千代田3-9-21）
5. 分科会 開催なし

6. 開催趣旨

教育学・心理学領域では、質的研究といったアプローチが多く用いられている。しかしながら、学校保健学領域においては、従来より、医学・疫学的アプローチが主流であった。近年、わずかながら保健室や養護教諭に関連した質的研究が見られるようになってきている状況である。しかしながら、投稿論文における査読のプロセス等、課題は多い。

また、学校保健学や養護教諭に関する養護学など、学問構築も開発途上の段階の状況である。さらに、養護教諭や学校保健といった教育実践においても、その質等を担保する視点からも質的研究は、重要と考えられる。従って、第57回日本学校保健学会年次学会、日本学術会議心理学・教育委員会教育の質向上検討分科会と、本シンポジウムを開催することとしたい。

7. 次 第

趣旨と進行の説明：

実践や学問構築に活かす質的研究 15分

コーディネーター；岡田加奈子（日本学術会議連携会員・千葉大学教育学部教授）

- (1) 教育学・教育心理学における質的研究 15 分
秋田 喜代美 (日本学術会議会員・東京大学大学院教育学研究科教授)
- (2) 養護教諭の実践と質的研究―養護教諭の立場から― 10 分
富塚 都仁子 (千葉市立小学校・養護教諭)
- (3) 実践と質的研究―現職並びに大学院での経験から― 10 分
平川 俊功 (東京家政大学・特任准教授)
- (4) 実践や学問構築に向けての質的研究 10 分
小林 央美 (弘前大学・准教授)

質疑と討論

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

29	
幹事会	96

提 案

公開シンポジウム「哲学・倫理・宗教教育はなぜ必要か—初等・中等教育における
哲学・倫理・宗教教育の意義と可能性—」の開催について

1. 提案者 哲学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議哲学委員会、日本宗教研究諸学会連合、日本哲学系諸学会連合
2. 共 催 哲学系4学会高校公民科教育連絡会
3. 日 時 2010年11月28日(日)13:00～17:00
4. 場 所 日本学術会議講堂
5. 分科会 同日に委員会および分科会開催予定
6. 開催趣旨

現代日本の社会システムは経済と情報のグローバル化に伴う急激な変動に対応しきれず、青少年は将来に明るい展望をもてない状況に追い込まれている。また、これまで伝統的諸価値の崩壊や価値観の多様化が盛んに語られながらも、日本の社会において生命の価値や人間性の意義、科学的知識の正当性などはそれなりの信頼を保持してきたが、それらへの信頼は今日大きく揺らいでおり、それが学校教育の現場をも根底から不安定にしている。このような状況を鑑みると、わが国の初等・中等教育において、哲学・倫理・宗教教育の必要性はますます高まっているように思われる。しかしながら、高等学校では哲学・倫理学・宗教学の専門教育を受けた教員の数近年激減しており、この分野の充実した教育は望むべくもない。これまでも高校教育のなかでのこの分野の位置づけは低いものであったが、大学入試をめぐる状況の変化とともに今後それはさらに低くなることが懸念される。また小中学校においても、新しい取り組みによって哲学・倫理・宗教教育のさらなる可能性を切り開く余地があるが、現代社会では教育にも効率を求められる傾向が顕著であり、いわばそのような傾向の対極にある哲学・倫理・宗教教育は厳しい状況におかれている。哲学・倫理・宗教教育の意義を改めて問い直

し、その可能性を探ることが今こそ必要であると考えて、本シンポジウムを企画する次第である。

7. 次 第

- ・報告者：直江清隆（東北大学准教授）
「市民形成の基礎としての哲学教育に向けて」
桑原直己（筑波大学教授）
「初等・中等教育現場における倫理・道德教育の現状と課題」
下田正弘（東京大学教授）
「倫理教育と特定宗教」
山中 弘（日本学術会議連携会員、筑波大学教授）
「日本における宗教教育の現状と課題」
- ・コメンテーター：佐藤 学（日本学術会議会員、東京大学教授）
- ・司 会：宮家 準（日本学術会議連携会員、慶応大学名誉教授）
氣多雅子（日本学術会議連携会員、京都大学教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

3 0	
幹事会	9 6

提 案

「科学・技術フェスタ in 京都 -平成22年度産学官連携推進会議-」の開催

- 1 提案者 会長
- 2 議案 標記について、下記のとおり開催すること。
- 3 提案理由 我が国の産学官連携活動の更なる発展に寄与するため。

記

- 1 主催
内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本経済団体連合会、日本学術会議、科学技術振興機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、情報通信研究機構、日本学術振興会、理化学研究所、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、日本原子力研究開発機構、工業所有権情報・研修館、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構
- 2 共催
関西経済連合会
- 3 後援
日本商工会議所、経済同友会、全国商工会連合会、京都商工会議所、京都府商工会連合会、京都工業会、京都経営者協会、技術同友会、科学技術と経済の会、日本知的財産協会、大学技術移転協議会、日本産学フォーラム、日本ライセンス協会、日本工学会、日本工学アカデミー、日本ベンチャー学会、シーズとニーズの会、日本弁護士連合会、日本弁理士会、発明協会、関東ニュービジネス協議会、ベンチャーエンタープライズセンター、全国イノベーション推進機関ネットワーク、全国エンジェルズ・フォーラム連合、バイオインダストリー協会、化学技術戦略推進機構、ヒューマンサイエンス振興財団、農林水産技術情報協会、農林水産先端技術産業振興センター、食品産業セン

ター、農業・食品産業技術総合研究機構、(株)日本政策投資銀行、全国信用保証協会連合会、東京中小企業投資育成(株)、名古屋中小企業投資育成(株)、大阪中小企業投資育成(株)、日本知財学会、ナノテクノロジービジネス推進協議会、産学連携学会

4 開催日時

平成22年6月5日(土) 9:30~16:30

5 開催場所

国立京都国際会館

住所：京都市左京区宝ヶ池 電話：075-705-1234(大代表)

6 開催趣旨

産学官連携に携わる第一線のリーダーや実務経験者等が一堂に会し、産学官連携に向けた具体的課題を研究討議するとともに、情報交換、対話・交流等を図る目的で、平成14年からこれまで8回の産学官連携推進会議を開催した。

昨年12月30日に閣議決定された「新成長戦略(基本方針)」では、戦略的なイノベーション分野として「グリーン・イノベーション」及び「ライフ・イノベーション」が定められるとともに、科学・技術は、「成長を支えるプラットフォーム」に位置づけられているところである。現在、「新成長戦略」のとりまとめに向けて、具体的な検討が鋭意続けられているところであるが、このようなタイミングで、産学官の関係者が集い、今後の我が国の目指すべき方向性について英知を結集して考えることは、非常に意義深いことだと考えられる。

また、今回は新たな試みとして、これからの我が国を担う高校生など次世代の若者にも広く科学・技術に関する興味を持ってもらうことも目的のひとつとしている。

7 主なプログラム(予定)

メインホールプログラム

9:30~9:40 開会

・鳩山由紀夫 内閣総理大臣からのビデオメッセージ

9:40~10:00 基調講演

- ・川端達夫 内閣府特命担当大臣（科学技術政策）

10:00～11:30 特別講演

- ・益川敏英 京都産業大学教授 『若者の未来と科学』
- ・宇宙飛行士からのメッセージ
- ・川島隆太 東北大学加齢医学研究所教授

11:30～13:00 昼食・休憩

13:00～13:30 産業界からの産学官連携に向けたメッセージ

- ・小林喜光 (株)三菱ケミカルホールディング取締役社長

13:30～14:30 産学官連携功労者表彰

（総理大臣表彰受賞者によるプレゼンテーションも含む）

産学官連携の優れた成功事例に対して、内閣総理大臣賞、科学技術政策担当大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、日本経済団体連合会会長賞及び日本学術会議会長賞の11種類の功労者表彰を行う。

14:30～15:00 コーヒーブレイク

15:00～16:30 科学・技術に関する具体的成果事例の紹介

- ・城戸淳二 山形大学教授
（クリーン・イノベーション関係で有機ELディスプレイ・照明）
- ・山海嘉之 筑波大学大学院教授
（ライフ・イノベーション関係で介護ロボットスーツ）

イベントホールプログラム

9:30～16:30

企業・大学・研究機関・自治体等の研究開発成果出展

11:30～13:00

若手研究者による科学・技術説明会

* 主催 11 独立行政法人の若手研究者が、最新の研究開発成果について
発表する。

アネックスホール・Room Aプログラム

9:30～16:30

高校生等を対象にした特別イベント

3 1	
幹事会	9 6

提 案

「平成 22 年度女子中高生夏の学校 2010～科学・技術者のたまごたちへ～」 の開催について

1. 提 案 者 科学と社会委員会委員長、科学者委員会委員長
2. 議 案 標記イベントを下記のとおり開催すること。
3. 提 案 理 由 「平成22年度女子中高生夏の学校2010～科学・技術者のたまごたちへ～」は、参加者が体験を通して科学を身近に感じることできる催事であり、科学と社会委員会科学力増進分科会の審議事項である、「国民の科学力増進に関すること」、に資するため。また、対象となる女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えるとともに、その保護者及び教員に理系進路支援についての理解を深めることできる催事であり、科学者委員会男女共同参画分科会の審議事項である、「科学に関する男女共同参画の推進に関すること」に資するため。

記

- 1 主 催 独立行政法人国立女性教育会館
日本学術会議 科学と社会委員会科学力増進分科会、
同 科学者委員会男女共同参画分科会
- 2 日 時 平成 22 年 8 月 12 日（木）～8 月 14 日（土）
- 3 会 場 国立女性教育会館
〒355－0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地
- 4 開催趣旨
- 5 プログラム等
別紙要項（案）参照

平成22年度 女子中高生夏の学校 2010

～科学・技術者のたまごたちへ～(案)



- 1 趣 旨 女子中高生が科学技術の世界の楽しさを「体験する」、そこで生き生きと活躍する女性たちと「交流する」、科学技術に関心のある仲間や先輩と「知り合う」機会として「女子中高生夏の学校 2010～科学・技術者のたまごたちへ～」を開催します。

このプログラムでは、Initiation、Interaction、International をキーワードに、科学研究者・技術者、大学生・大学院生と女子中高生が少人数を単位として親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものです。理系の分野も様々です。すでに理系の道を進んでいる女子中高生も、これから夢を追い求める人も、ちょっと不安な人も、より深くより広く自分たちの視野を広げてみませんか？

また、進路選択に影響を及ぼす身近な支援者である保護者・教員のプログラムも別々に設定しております。子どもの将来像が描けるように、よきアドバイスができるように理系進路支援についての理解を進めます。

- 2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館
日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」(予定)
「科学者委員会 男女共同参画分科会」(予定)

- 3 協 力 男女共同参画学協会連絡会

- 4 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地
TEL:0493-62-6724 FAX:0493-62-6720
ホームページ: <http://www.nwec.jp/> E-mail: progdiv@nwec.jp

ホームページ <http://www.natsugaku.com>

- 5 期 日 平成 22 年 8 月 12 日 (木) ～ 8 月 14 日 (土) 2 泊 3 日

- 6 参 加 者 科学・技術の分野に興味・関心のある女子中学 3 年生・女子高校生 100 名
保護者・教員等 50 名

7 申込について

- (1) 申込方法 国立女性教育会館事業課へ郵送・FAX・ホームページからのいずれかでお申し込みください。なお、ホームページでのお申し込みは会館のホームページをご参照ください。ホームページ又は FAX での申し込みは、送信後その旨を電話でご連絡ください。

- (2) 申込期間 平成 22 年 6 月 1 日 (火) ～ 6 月 30 日 (水) 午後 5 時締切
※ 応募者多数の場合は抽選により参加者を決定します。
また、応募者多数の場合は、1 校につき 3 名までとさせていただきます。

- (3) 決定通知 申し込みの結果は、7 月 10 日までに、本人宛に文書により通知します。

8 所要経費 参加費は無料です。

- (1) 宿泊費は、女子中高生・保護者・教員とも「夏の学校」期間中（前後泊ともに）1泊1,000円です。
- (2) 期間中の食事は、国立女性教育会館内のレストランでおとりいただきます。
食費は、1食1,000円程度（カフェテリア方式）です。
なお、懇親会費は2,000円、2日目の昼食のお弁当は850円です。
- (3) 参加女子中高生の交通費につきましては、往復25,000円を超える料金の一部を補助いたします（往復学生割引適用時）。
- (4) 参加者全員に保険に加入していただきます（自宅を出てから帰宅まで）。

9 日 程

【中高生用】

<第1日 8月12日（木）>

- (1) 開校式 14:00～14:30
開会宣言 企画委員長（日本女性科学者の会） 猪俣 芳栄
挨拶 国立女性教育会館理事長 神田 道子
日本学術会議会員 長谷川 壽一
オリエンテーション 水城高等学校 古澤 亜紀
- (2) キャリア講演 14:40～15:40
企業研究者・高校教員より自身の人生について講演をしてもらう。講演後にグループ内ディスカッションを行い、質疑応答の時間も設ける。
講師 企業研究者
講師 高校教員 栃木県立日光明峰高等学校教諭 高橋 春美
- (3) 学生企画 女子学生からのメッセージ 15:45～16:15
身近な理工系女子大学生・大学院生が自分の今を紹介し、理系で学ぶことの楽しさを知ります。
- (4) 女性研究者・技術者の職場探訪 16:30～17:30
あの世界のグーグルの職場をのぞいてみましょう。参加者の皆さんと海外にいる女性研究者とのトークもあります。
コーディネーター グーグル株式会社人事スペシャリスト 大石 由弥
- (5) タ 食 18:00～19:00
- (6) 学生企画 サイエンスバトル！？（予定） 19:00～21:00
グループで協力し合い、学生スタッフ（女子大学生・大学院生TA）の出題する課題・クイズに挑戦しながらグループの親交を深めます。同時に会館内オリエンテーリングと参加者－スタッフ間の交流も行います。
- (7) 天体観望会＜オプション企画＞ 21:00～
天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。

<第2日 8月13日（金）>

- (8) 朝 食 7:30～8:30
- (9) ネイティブによる英会話レッスン（1班8:10～8:30、2班 8:30～8:50）
国際交流に向けて、ネイティブによる簡単な英会話レッスンをおこないます。参加希望者を

2つの班に分けてレッスンします。

- (10) サイエンスアンバサダー・レクチャー編 9:00～10:00
サイエンスエクスプローラー（科学探検隊）での実験・実習、ポスターセッション・キャリア相談の体験をレポートにまとめ、サイエンスアンバサダーとして地域で報告するための心構えを学びます。
- (11) サイエンスアドベンチャー（科学探検隊）Ⅰ 10:00～12:00
サイエンスの世界を探検隊となり、サイエンスの宝を探します。
予め参加決定時に実験・実習の希望調査を行います。決定した実験・実習をじっくりと取り組み、研究者・技術者と交流しながら自分なりの発見をします。
- (12) 昼 食 12:00～13:00
- (13) 国際交流＜中高生＞ 13:00～14:00
韓国の女子高校生と web 交流を行い、学校や日ごろの生活、お互いの夢を語り合います。
- (14) 写真撮影 14:00～14:15
- (15) サイエンスアドベンチャー（科学探検隊）Ⅱ 14:15～17:45
サイエンスの世界を探検隊となり、サイエンスの宝を探します。
協力学会、企業や大学、研究所や行政など様々な立場の研究者・技術者が進路相談にのると共に、最先端科学技術を紹介する体験型のブースを回り自分なりの発見をします。
- (16) 交流パーティー 18:00～19:00
夕食をとりながら、講師、実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。
- (17) 学生企画 サイエンスアンバサダー・トレーニング編 19:00～21:00
「サイエンスアンバサダー・レクチャー編」で学んだ手法を実際に活用すべく、学生TAやスタッフにインタビュー等を行い、得た情報をもとに「夏学タイムズ号外編」を作成します。創意工夫の見られるレポートは最終日に表彰があります。
- (18) 天体観望会＜オプション企画＞ 21:00～
天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。

＜第3日 8月14日（土）＞

- (19) 朝 食 7:30～8:30
- (20) 学生企画 理系キャリアプログラム（予定） 9:00～11:00
学生スタッフが作成したサイエンスクイズに答え、理系キャリアゲームを疑似体験する。
キャリアは夏学卒業後からはじまり、進学、就職や結婚、育児など理系女子特有の悩みや人生に関わるさまざまな出来事を盛り込み、参加者に理系女子の夢やライフプランについて具体的なイメージをいただけてもらいます。
- (21) 学生企画 表彰式＜中高生、保護者・教員等共通＞ 11:15～12:00
どんな3日間を過ごしたのかを振り返り、学生企画の成果をグループごとに発表、表彰を行います。
- (22) サイエンスアンバサダー任命式＜中高生、保護者・教員等共通＞ 12:00～12:30

中高生参加者全員がサイエンスアンバサダーに任命されます。

任命

企画委員長（日本女性科学者の会）

猪俣 芳栄

【保護者】

<第1日 8月12日（木）>

（1）開校式 14：00～14：30

開会宣言

企画委員長（日本女性科学者の会）

猪俣 芳栄

挨拶

国立女性教育会館理事長

神田 道子

日本学術会議会員

オリエンテーション

水城高等学校

古澤 亜紀

（2）キャリア講演 14：40～15：40

企業研究者・高校教員より自身の人生について講演をしてもらう。講演後にグループ内ディスカッションを行い、質疑応答の時間も設ける。

講師

企業研究者

第一三共株式会社

好田 宏子

講師

高校教員

栃木県立日光明峰高等学校教諭

高橋 春美

（3）学生企画 女子学生からのメッセージ 15：45～16：15

身近な理工系女子大学生・大学院生が自分の今を紹介し、理系で学ぶことの楽しさを知ります。

（4）女性研究者・技術者の職場探訪 16：30～17：45

あの世界のグーグルの職場をのぞいてみましょう。参加者の皆さんと海外にいる女性研究者とのトークもあります。

コーディネーター

グーグル株式会社人事スペシャリスト

大石 由弥

（5）夕食 18：00～19：00

（6）保護者・引率者の出会いと夏学を知る会 19：30～21：00

自己紹介をした後、今までの夏学のDVDを視聴し、夏学の学びのポイントを知ります。

（7）天体観望会＜オプション企画＞ 21：00～

天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。

<第2日 8月13日（金）>

（8）朝食 7：30～8：30

（9）サイエンスアンバサダー・レクチャー編見学 9：00～10：00

サイエンスエクスプローラー（科学探検隊）での実験・実習、ポスターセッション・キャリア相談の体験をレポートにまとめ、サイエンスアンバサダーとして地域で報告するための心構えを学びます。

講師

（

）

（10）ポスター見学＜保護者・教員等、一般公開＞ 10：00～11：45

協力学会、企業や大学、研究機関からのさまざまな立場の研究者・技術者による最先端科学技術の紹介を聞きます。

- (11) 昼 食 12:00～13:00
- (12) 国際交流見学 13:00～14:00
韓国の女子高校生と web 交流を行い、学校や日ごろの生活、お互いの夢を語り合う場面を見ます。
- (13) 写真撮影 14:00～14:15
- (14) サイエンスカフェ I 14:30～17:30
ミニ講演では、企業の人事担当者を囲んで、理系学部出身の女性が実際にどのように働いているのか。企業から見た必要とする人材とはどのような人物なのか等について本音で語ります。
- 学生との座談会
女子中高生たちとより年齢の近い学生 T A たちの体験談などを聞きます。進路選択に伴う悩み、その時に、保護者・教員等でできることは何かを考えます。
- (15) 交流パーティー＜中高生、保護者・教員等共通＞ 18:00～19:00
夕食をとりながら、講師、実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。
- (16) サイエンスカフェ II 「子どもの未来を語りましょう。」 19:30～21:00
ご自分の子どもの夢、進路、未来、親の不安、想い等、参加した保護者でざくばらんに語り合います。【玉尾委員、渡辺委員が参加予定】

- (17) 天体観望会＜オプション企画＞ 21:00～
天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。サイエンスエクスプローラーの天体実験に参加した中高生は、自ら組み立てた望遠鏡を使って観測します。

<第3日 8月14日（土）>

- (18) 朝 食 7:30～8:30
- (19) NWE C プログラム＜保護者＞ 9:00～11:00
国立女性教育会館提供のプログラムとして、女性の理系進路選択を含むキャリア形成についてワークショップなどを行います。
国立女性教育会館事業課専門職員
- (20) 学生企画 表彰式＜中高生、保護者・教員等共通＞ 11:15～12:00
どんな3日間を過ごしたのかを振り返り、学生企画の成果をグループごとに発表、表彰を行います。
- (21) サイエンスアンバサダー任命式＜中高生、保護者・教員等共通＞ 12:00～12:30
中高生参加者全員がサイエンスアンバサダーに任命されるのを見学します。
任命 企画委員長（日本科学者の会） 猪俣 芳栄

【教員等用】

<第1日 8月12日(木)>

- (1) 開校式 14:00～14:30
開会宣言 企画委員長(日本女性科学者の会) 猪俣 芳栄
挨拶 国立女性教育会館理事長 神田 道子
日本学術会議会員
オリエンテーション 水城高等学校 古澤 亜紀
- (2) キャリア講演 14:40～15:40
企業研究者・高校教員より自身の人生について講演をしてもらう。講演後にグループ内ディスカッションを行い、質疑応答の時間も設ける。
講師 企業研究者
講師 高校教員 栃木県立日光明峰高等学校教諭 高橋 春美
- (3) 学生企画 女子学生からのメッセージ 15:45～16:15
身近な理工系女子大学生・大学院生が自分の今を紹介し、理系で学ぶことの楽しさを知ります。
- (4) 女性研究者・技術者の職場探訪 16:30～17:45
あの世界のグーグルの職場をのぞいてみましょう。参加者の皆さんと海外にいる女性研究者とのトークもあります。
コーディネーター グーグル株式会社人事スペシャリスト 大石 由弥
- (5) タ 食 18:00～19:00
- (6) 保護者・引率者の出会いと夏学を知る会 19:30～21:00
グループで協力し合い、学生スタッフの出題する課題・クイズに挑戦しながらグループの親交を深めます。同時に会館内オリエンテーリングと参加者一スタッフ間の交流も行います。
- (7) 天体観望会<オプション企画> 21:00～
天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。

<第2日 8月13日(金)>

- (8) 朝 食 7:30～8:30
- (9) サイエンスアンバサダー・レクチャー編見学 9:00～10:00
サイエンスエクスプローラー(科学探検隊)での実験・実習、ポスターセッション・キャリア相談の体験をレポートにまとめ、サイエンスアンバサダーとして地域で報告するための心構えを学びます。
- (10) ポスター見学<保護者・教員等、一般公開> 10:00～12:00
協力学会、企業や大学、研究機関からのさまざまな立場の研究者・技術者による最先端科学技術の紹介を聞きます。
- (11) 昼 食 12:00～13:00
- (12) 国際交流見学 13:00～14:00
韓国の女子高校生とweb交流を行い、学校や日ごろの生活、お互いの夢を語り合う場面を見ます。

- (13) 写真撮影 14:00～14:15
- (14) サイエンスカフェⅠ 14:30～17:30
ミニ講演では、企業の人事担当者を囲んで、理系学部出身の女性が実際にどのように働いているのか。企業から見た必要とする人材とはどのような人物なのか等について本音で語ります。

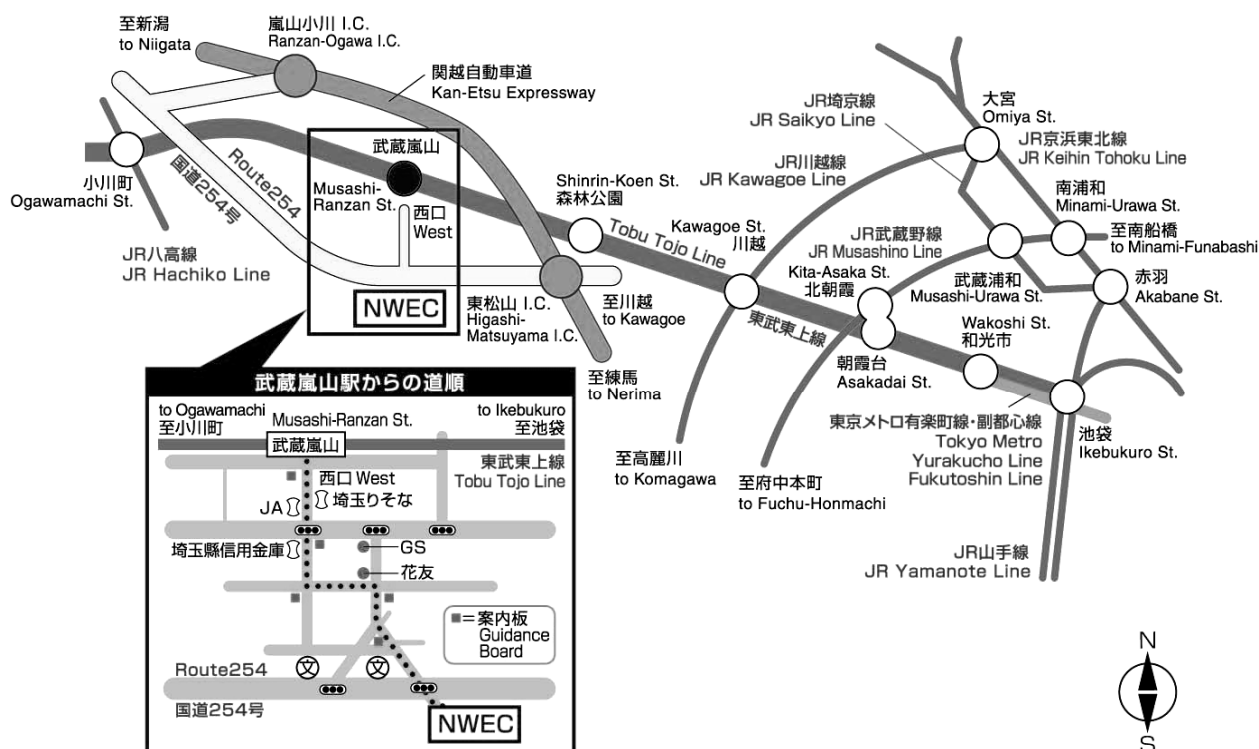
いくつかの演示実験を見ながら、サイエンスの面白さや楽しさにふれます。少人数のテーブルトークを行い意見交換や交流を深めます。
- (15) 交流パーティー＜中高生、保護者・教員等共通＞ 18:00～19:00
夕食をとりながら、講師、実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。
- (16) サイエンスカフェⅡ 「科学の未来を語りましょう」 19:30～21:00
科学の未来について、参加した教員でざっくばらんに語り合います。【玉尾委員、渡辺委員が参加予定】
- (17) 天体観望会＜オプション企画＞ 21:00～
天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。サイエンスエクスプローラーの天体実験に参加した中高生は、自ら組み立てた望遠鏡を使って観測します。

<第3日 8月14日（土）>

- (18) 朝食 7:30～8:30
- (19) 教育プログラム＜教員＞ 9:00～11:00
3日間の体験の感想を話し合いながら、自校での活かし方を語り合ったり、サイエンスアドベンチャー・サイエンスカフェ等の体験から学んだことなどをもとに、簡単な学習指導略案作り等を行い、夏学の成果を今後の教員生活に活かすように共有します。
- (20) 学生企画 表彰式＜中高生、保護者・教員等共通＞ 11:15～12:00
どんな3日間を過ごしたのかを振り返り、学生企画の成果をグループごとに発表、表彰を行います。
- (21) サイエンスアンバサダー任命式＜中高生、保護者・教員等共通＞ 12:00～12:30
中高生参加者全員がサイエンスアンバサダーに任命されるのを見学します。
任命 企画委員長（日本科学者の会） 猪俣 芳栄

10 経 路

※ 初日の8月13日と最終日の15日は、国立女性教育会館最寄り駅の東武東上線「武蔵嵐山駅」東口と会館の間で無料送迎バスを運行します。運行時間等は、参加決定通知に同封しますので、ご利用ください。



●電車では

東武東上線武蔵嵐山駅から徒歩 15 分

※最寄の駅からタクシー利用

森林公園駅、小川町駅から 12 分

武蔵嵐山駅から 5 分

※武蔵嵐山駅へは

池袋駅から東武東上線急行「小川町行き」で約 60 分

小川町駅から東武東上線で 7 分

※東京メトロ副都心線で渋谷から池袋まで急行で約 11 分

※東京メトロ有楽町線、副都心線の和光市駅から東武東上線に乗換えができます。

●自動車では

東京方面は、練馬 I.C. から関越自動車道で 35 分

東松山 I.C. から国道 254 号で 15 分

新潟方面は嵐山小川 I.C. から国道 254 号で 15 分

※リムジンバス利用

森林公園駅北口と成田空港・羽田空港間のリムジンバス、また大阪駅・京都駅間的高速バスが発着していますのでご利用ください。

【問い合わせ先】

国立女性教育会館 事業課 担当：佐國、引間
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL：0493-62-6724・6725
FAX：0493-62-6720
URL：<http://www.nwec.jp/>
E-mail：progdiv@nwec.jp

3 2	
幹事会	9 6

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
機械の日・機械週間 主催：社団法人日本機械学会 期間：平成 22 年 8 月 1 日～7 日 場所：トヨタテクノミュージアム産業技術記念館ほか	社団法人日本機械学会会長	第三部
第 12 回日本感性工学会大会 主催：日本感性工学会 期間：平成 22 年 9 月 11 日～13 日 場所：東京工業大学大岡山キャンパス	日本感性工学会 会長	第三部
第 4 回国際 O-CHA 学術会議 主催：第 4 回国際 O-CHA 学術会議実行委員会 期間：平成 22 年 10 月 26 日～28 日 場所：静岡県コンベンションアークセンター「グランドシップ」	第 4 回 国 際 O-CHA 学術会議 実行委員会委員 長	第二部
食と花のフォーラムにいがた 2010 食の国際会議”食の未来を考える” 主催：食と花の世界フォーラム組織委員会 期間：平成 22 年 10 月 29 日～31 日 場所：新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ	食と花の世界フ ォーラム組織委 員会会長	第二部
第 31 回日本熱物性シンポジウム 主催：日本熱物性学会 期間：平成 22 年 11 月 17 日～19 日 場所：九州大学・伊都キャンパス(講演会場)	日本熱物性学会 会長	第三部

3 3	
幹事会	9 6

提 案

国際会議の後援について

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 国際会議を後援すること。
- 3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の
行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、
国際委員会(主催等検討分科会)において審議を行ったところ、
適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

第8回アジア・太平洋渡航医学会議

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：第8回アジア・太平洋渡航医学会議 英文：8th Asia-Pacific Travel Health Conference（略称：APTHC）										
開 催 時 期	平成 22 年 10 月 20 日 ～10 月 23 日（4 日間）										
開 催 場 所	奈良県新公会堂										
主 催 団 体	第 8 回アジア・太平洋渡航医学会議組織委員会										
共 催 団 体	日本渡航医学会 アジア・太平洋渡航医学会 日本政府観光局										
母 体 団 体 等	アジア・太平洋渡航医学会 (Asia-Pacific Travel Health Society)										
参加予定者数 [参加予定国]	国外 150 人 国内 400 人 計 550 人 [25 カ国・地域]										
会 議 内 容	会長講演，基調講演，シンポジウム，口演研究発表，研究法 討論，ワークショップ，ポスター発表，自由交流集会等										
会 議 議 事 録 等	学会開催の概要について事後報告する予定										
開催経費の財源 [募 金 団 体]	<table> <tr> <td>参 加 費</td><td>13,480 千円</td></tr> <tr> <td>助 成 金</td><td>3,300 千円</td></tr> <tr> <td>寄 付 金</td><td>11,400 千円</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>15,220 千円</td></tr> <tr> <td>計</td><td><u>43,400 千円</u></td></tr> </table> 日本政府観光局（独立行政法人国際観光振興機構：JNTO）	参 加 費	13,480 千円	助 成 金	3,300 千円	寄 付 金	11,400 千円	その他	15,220 千円	計	<u>43,400 千円</u>
参 加 費	13,480 千円										
助 成 金	3,300 千円										
寄 付 金	11,400 千円										
その他	15,220 千円										
計	<u>43,400 千円</u>										
申 請 者	第8回アジア・太平洋渡航医学会議 組織委員会 委員長 西山 利正										
連 絡 責 任 者	同上										